

工学部

エレクトロニクスの箱庭

工学研究科 須田 淳 准教授
専門分野：半導体工学

身の回りにあるエレクトロニクス

エレクトロニクス(電子回路)はデジタル家電、携帯電話、パソコンなど身の回りのあらゆる製品に使われています。最先端の技術により、一昔前には想像すらできなかった高速無線通信や高度情報処理を個人が手軽に利用することが可能になりました。また、エレクトロニクスの活躍は情報通信だけにとどまりません。冷蔵庫やエアコン、電車や電気自動車では電力を自在に操るパワーエレクトロニクス技術が使われており、省エネルギーに大きく貢献しています。

電子回路にはさまざまな科学技術やアイデアが凝縮されているのですが、技術が高度化し、外見も洗練されすぎてしまい、日常生活でみなさんがそのすばらしさを感じる機会が少なくなっていました。このポケゼミでは、電子回路の基礎について学ぶと共に実際に自分で電子回路を製作し、また、それを動作させることで、電子回路の考え方やいろいろな工夫に接し、また、電子回路の中核をなすトランジスタや集積回路(IC)、発光ダイオード、太陽電池などの半導体デバイスについても知識を広げてもらいたいと思っています。



農学部

フードシステムとフェアトレード

農学研究科 辻村 英之 准教授
専門分野：農業食料組織経営学

教科書に書いてない新知見を求めて

コーヒーを事例として途上国の貧困問題や南北問題を学ぶことは、高校の社会科の授業で経験しているかもしれない。フェアトレードもセンター試験にひんぱんに取り上げられるようになり、知らない新入生はもはやいないだろう。しかし大学のゼミは、高校で学んだような一般論を鵜呑みにはしない。私たちは「フードシステム」という学術的な分析概念に基づいて、文献購読、聞き取り調査、討論などを行うことで、コーヒー産地の貧困やフェアトレードの役割などについて、教科書に書いてない新知見を探索したい。

分析概念「フードシステム」

フードシステムとは、食料品の生産から消費までの諸産業の連鎖のことである。「農」(生産)と「食」(消費)が遠く離れてしまった現在、両者を介在する食品産業



ゼミの進め方

ポケゼミは、中学校で学んだオームの法則から出発します。中学レベルの電気回路も完全に理解しようとするとなかなか奥深いものです。電圧、電流、抵抗という概念を回路の試作と測定、結果の予測や解釈についての討論を通じて心から理解してもらいます。次に、電気をためる働きをもつコンデンサ、さらには、回路をオン・オフする働きを持つトランジスタを加えた回路を試します。ここまで来ると、ポケゼミのタイトルの意味が少しずつ分かってきます。電気を水にたとえれば、電池は貯水池、配線は水路、コンデンサは小池、トランジスタは水門と見なすことができ、電子回路はわずかに数センチ角の基板上に作られた動きのある景観、つまり「エレクトロニクスの箱庭」であることが。

ポケゼミ後半の数回は、みなさんに自由製作してもらいます。それまでに学んだ基本回路を組み合わせて、ちょっと気の利いた回路(キッチンタイマーや電子オルガンなど)を各自が工夫して作ります。なかなか思い通りにはなりませんが、苦勞の末に回路が動作したときは、本当に嬉しい気持ちになると思います。難しいと思っていたエレクトロニクスを身近に感じることができるはずです。

ポケゼミの内容は文系、理系問わず理解して楽しめる内容になっています。将来エレクトロニクスと関わる可能性のある理工系の学生さんはもちろん、法学部や文学部、農学部など、今後の授業でエレクトロニクスを学ぶ機会がなさそうな人に是非このゼミを受講し、視野を広げてもらえたらと思っています。

(食品製造業者、食品流通業者、外食産業業者)を含めた全体(生産→食品産業→消費)を1つのシステムとしてとらえないと、食料をめぐる諸問題を理解できない。そこで新たな分析概念「フードシステム」が求められたのである。

ゼミの概要

分析対象とする「キリマンジャロ」コーヒーのフードシステムの川上側には、担当教員が長年研究してきたタンザニア・キリマンジャロ山中のルカニ村がある。そして喫茶店や私たちの食卓が川下側である。ルカニ村産「キリマンジャロ」「フェアトレード」コーヒーを抽出・飲用し、香味の上質さやそれを引き出すコーヒーの上手な入れ方を学ぶこと、すなわち川下側の学習から、私たちのゼミははじまった。

担当教員が執筆した『おいしいコーヒーの経済論―「キリマンジャロ」の苦い現実』の内容について、受講生10名(多い順に法学部、農学部、経済学部、理学部、工学部)による報告と討論により理解を深めた後、ルカニ村産コーヒーの焙煎業者、喫茶店、小売店などを訪問し、聞き取り調査をする予定である。調査の成果は報告書としてまとめ、調査でお世話になる業者の方々へのお礼としたい。

「フェアトレード」普及のための方策

「キリマンジャロ」のフードシステムの実態、特に生産者を貧困に陥れる不公正な価格形成の仕組みや、それを公正化するフェアトレードの役割について理解した上で、さらに受講生に求めたいのは、日本においてなかなか普及しない「フェアトレード」を、販売促進する方策の提案である。

また希望者には、フードシステムの川上側・ルカニ村を訪問するスタディツアーや、フェアトレードの学習と実践に努める学生サークルを紹介し、継続的な勉強を手助けしたい。

Faculties

学部紹介

総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies

P20

文学部

Faculty of Letters

P24

教育学部

Faculty of Education

P28

法学部

Faculty of Law

P32

経済学部

Faculty of Economics

P36

理学部

Faculty of Science

P40

医学部

Faculty of Medicine

P44

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

P52

工学部

Faculty of Engineering

P56

農学部

Faculty of Agriculture

P60

京都大学の10の学部紹介について

学部の特長、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目などについて述べられています。また、各学部の在学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。



Faculty of Integrated Human Studies

新たな「人間の学」をめざして

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず、限りない好奇心をもつことのできる学生、学を究めるためにはいかなる労苦をもいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることのできる学生、本学部はそういう学生が門をたたくことを望んでいます。

総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎えた、京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここでの研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総体的に捉える学問の確立が、総合人間学部に与えられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性を求めることができるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能です。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供することを、われわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究科(大学院)に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制を取り、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。

120名の入学生は、最初の1年間はどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らが主専攻とする学系を選択します。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。



▲実習風景：森谷俊夫教授「認知行動科学への招待」



▲授業風景：佐野亘准教授「公共政策論ⅠA」

総合人間学部の教育

●5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。人間をめぐる現代の複雑な状況は、人間についての根源的、総合的理解を緊急に進めることを、われわれに求めています。この要求に応えるため、思想、社会、文化といった多様な観点から、人間の総体的な把握がなされなければなりません。こうした観点から現代の人間の在り方を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。さらに、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急となっています。脳の機能の探究から、人間の認知、行動発現、言語機能の探究、さらにはその基礎をなす情報科学や数理学にいたる広範な領域を深く学ぶために、「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋ならびにその固有の文明を、多様かつ複合的な視点から捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本の在り方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって新たな国際的な文明の理念を構築するため、「国際文明学系」が設置されています。また世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するため、「文化環境学系」が設置されています。

自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探究し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するため、「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が

構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

●専攻の決定

「文系」、「理系」という入学試験の形態にかかわらず、自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分類します。

●4年一貫教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目とを4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムが実施されます。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

●副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野でも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員等とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

●大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学希望者の多くは、「人間・環境学研究科」に進学しています。また、本学の他の研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

人間は、個体であると同時に共同体をなす共生的存在です。本専攻は、人間がもつ基本的諸機能の解明を通して、共生的存在としての人間の在り方を解明するとともに、それに由来する諸問題の解決を可能にする学、すなわち「共生人間学」を目指します。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

共生文明学専攻

文明間の対立が深刻化する今日、これを回避するための文明間の対話がますます強く求められている時代はありません。本専攻は、このような地球観と未来への展望をもとに、文明相互の共生を可能にする学、すなわち「共生文明学」を目指します。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

相關環境学専攻

人間の未来は、自然と人間の調和的共生を図るべく、いかにして科学技術と産業とを導いていくにかかっています。本専攻は、この調和的共生を可能にするための新しい科学技術と社会システムとを探索する学、すなわち「相關環境学」を目指します。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相關論講座の4講座を設置しています。



▲授業風景：中嶋節子准教授「環境構成論Ⅳ」

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理学的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学の構築を目指します。

人間形成論、社会行動論、文化社会論、人間存在論、創造行為論、文芸表象論



▲ホッティチェリ『リベラル・アーツに導かれる若者』背景は宇治分校正門(昭和31年)

文化環境学系

本学系では近代文明のグローバル化が進展する現代にあってその基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な人間活動や居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追及します。また各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を種々の記憶にも留意しつつ複眼的な視点から解明します。教育方針としては、文明・文化や環境に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明・文化はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文明・文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

比較文明論、文化・地域環境論



認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医科学、情報科学や数理科学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知・行動科学、数理情報論、言語科学、外国語教育論



▲MRIを用いた実験風景

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、化学・物質科学、生物科学、地球科学で構成されています。それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子生命環境論、自然環境動態論、物質相関論



▲地球科学演習C(伊豆大島巡検)

国際文明学系

社会科学・人文科学の諸分野が、「タコツボ化」して柔軟さや他分野との連携を失い、現代社会が直面する深刻な諸問題の解決に十分な対処ができなくなると指摘されるようになりました。それを克服すべく、本学系において学生諸君は、社会科学系諸分野、日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する諸分野から、主専攻を選び、その研究に従事するとともに、関連する諸学問を領域横断的に学ぶことになります。これを通して、真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ者が体得する、高度で幅広い教養(リベラルアーツ)と、柔軟な思考に裏付けられた専門知の習得を目指します。「何をどう学ぶか」を自分で設計したいと願う意欲的で主体的な学生を期待します。

社会相関論、歴史文化社会論



卒業後の進路

進学：約3割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。

就職：就職先は官公庁や教育機関、マスコミやIT関係といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活躍しています。

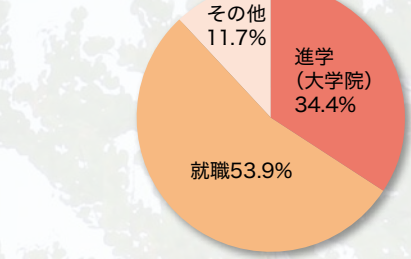
就職先の例

総務省／大阪国税局／日本郵便(株)／駿河台学園／日本テレビ放送網(株)／(株)朝日新聞社／(株)三井住友銀行／(株)PHP研究所／積水化学工業(株)／江崎グリコ(株)／(株)資生堂／三井物産(株)／(株)日立製作所／大阪ガス(株)／JA 滋賀中央会／(株)阪急阪神百貨店／

総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、右記の種類、教科について課程認定を受けています。教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の学芸員や図書館司書の資格も他学部の科目を修得することで、取得することができます。

2013 年度実績



総合人間学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種 類	教 科
中学校一種	国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語
高等学校一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語

Message

自分次第で最高の学びの場に

社会人6年目、格闘する日々。自分と全く違う価値観の人たちを前に心身をやられる日もしばしば。そんな中、総人に学んだことは、時を経るほどに強力な武器や大切な対話相手になってくれています。専門は国文学。古典世界の感性に目覚める一方、ネグリに出会い、錬金術にときめき、パレスチナ問題について考え、気鋭の社会学に心酔し……。そんな野放図な総人生活を経て書いた卒論『「新古今和歌集」読解試論』は、亡き恩師のお言葉を借りると「総人的だね」。日本文学の真髄に肉薄したと自負しています。強い志望動機は要りません。自分の直感を信じ、無知にも物怖じしない勇気さえあれば、ここはきっと最高の学びの場。「わけわからなかった」でも大丈夫。どうせ世の中そんなもの。でも、そこからでも何かつかめる、そんな場所にするのも自分自身だと思います。

卒業生メッセージ

2009 年 国際文明学系卒業
中央公論新社 勤務
(豊中高等学校(大阪府)出身)

菅 龍典 さん



『好き』を試しに総人へ

文学・思想が好きだった高校時代、それでも生物学などの理系分野への関心が拭い去れず、文理の枠を超える「総人」へ足を踏み入れました。実際に入学して分かったのは、私のように自分の「好き!」を自由に貪欲に追及したいわがままな人には最適な学部だということです。もちろん人それぞれ「好き」の形が異なるので、自然と研究分野もバラバラになります。例えば、一緒にお昼ご飯を食べている友人の一人がプログラミングの話をしてたかと思えば、別の友人が都市計画の話をしだし、最終的にみんなで演劇について盛り上がる……などあらゆる面で知的好奇心が刺激される毎日です。多様なのは学生だけでなく教員の方々にも共通しており、自分の興味を深めてくれるような人が必ず見つかると思います。ぜひあなたの「好き」を試しにきてください。

在学生メッセージ

文化環境学系 3 回生
(履正社高等学校(大阪府)出身)

井上 緑 さん



総人にあって、他学部にないもの

このタイトルを見てこの文章を読み出したあなたは、総人に少なからず興味があるということになる。とにもかくにも、私が総人に入学したのは、岩波新書刊『夢分析』という本との出会いがあったからである。幼い頃から教師を目指していた私にとって、教育大・教育学部に入るというありきたりな選択肢はハナからなかった。どうせなら、自分の興味のあることを学んだ上で教師になりたい。大学・大学院で精神分析を学んだことは、夢を叶え教師になった今、生徒指導にも役立っている。さて、総人には様々な趣味志向を持った人たちが集まる(と言われている)。私の代もまさしくその例に漏れず、様々な「変わり者」たちがいた。道を分かった者も当然いるが、卒業・修了してから現在に至るまで、学生時代と同じように「変わったこと」を共に楽しむことができる仲間たちと出会えたのは、私の人生にとって僥倖であった。総人にあって、他学部にはないもの。残念ながら、この答えを知るにはあなた自身が総人に入ってみるしかないのである。

卒業生メッセージ

2008 年 人間科学系卒業
大阪府立高校教諭
(四条畷高等学校(大阪府)出身)

原 圭佑 さん



道は自由に、自分で決める

総合人間学部は京大の学部の中でも特に自由度の高い学部です。一つの学部の中で多様な学問が扱われており、興味・関心の異なる学生・教員が集っています。普段から文系理系を問わず友人同士で集まって話をするのは、とても刺激的なものです。京大を象徴する言葉である「自由」をわかりやすく体現している学部だと言えるかもしれません。大学での勉強はそれまでと違い、自分が何を学ぶかを自分で決め、発信していく必要があります。この学部の場合、その自由度の高さにかえってとまどうこともあるかもしれません。そんなときは多様な環境を利用して答えを探してみてください。少し勇気を出して周りの人に話を聞けば、いろんな視点からの助言が得られるはずです。長くても短い学生生活ですが、そこで得られる経験を通して、自分の進む道を見つけてください。

在学生メッセージ

認知情報学系 4 回生
(大手前高等学校(大阪府)出身)

吉田 弘生 さん





Faculty of Letters

根源的な人間理解への多元的なアプローチ

文学部が望む学生像

文学部における教育は、人文学の名のもとに、思想、言語、文学、歴史、行動、さらに現代文化に関わって展開されてきた諸学の成果を学生に教授し、共に学び考えながら、新たな知的価値を創出することをめざしてなされるものです。そこでの活動には、単に文系の範疇に含まれるものだけではなく、高度な数学的方法や実験の手法、また情報処理の技術を必要とするものもあります。文学部は、人文学の諸学問に関して、こうした幅広い能力を具え、かつ深い教養と倫理性にも優れた人材を育成することをめざしています。過去から現在に至り、さらに未来にまでびる人類の営みについて、様々な角度から関心を寄せ、柔軟な思考力によって問題を発見し、その解決のため、論理的に、また歴史的に、創造性豊かな考察を展開することのできる学生を歓迎します。

文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在文学部には、哲学基礎文化学、東洋文化学、西洋文化学、歴史基礎文化学、行動・環境文化学、基礎現代文化学の6つの系と、その中に32(大学院では31)の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねるキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的に日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の系と専修も実に多種多様です。それぞれの専修は、独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年を超える歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

▲かむ丞相(奈良絵本)

文学部の教育

●国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。日本で学んだ研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めねばなりません。文学部では学部生の段階から、留学や外国人研究者との交流、さらには学際的国際シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードになった研究者を育てようとしています。

●文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目です。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間にはできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にプラスとなるでしょう。また、この時期は所属専修が決まっていないとはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭にそれぞれに必要な外国語を勉強しておくことが望めます。

2回生になるときは、3回生で専修に分属する準

備として6つの系に仮分属します。各専修が開講している入門的な講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定するのに備えます。もちろん3回生になる際に、他の系の専修を選ぶこともできます。2回生で履修する文学部英語や各言語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研

究が身近に感じられるようになるでしょう。他学部に比べて文献講読の形式を取る授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習(フィールドワーク)を課しているところもあります。

4回生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、ときには苦しいかも知れませんが、一つのを完成する重要さを学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

入学から卒業までの流れ

学部4		特殊講義・演習等	卒業論文	研究指導
学部3	全学共通科目各群	各専修の特殊講義・演習等		
学部2	全学共通科目各群		系共通科目講義・講読・実習等	
学部1	全学共通科目各群	ポケット・ゼミ	系共通科目講義	

全学共通科目: 人文・社会科学系科目群、自然・応用科学系科目群、外国語科目群、現代社会適応科目群、拡大科目群
文学部・文学研究科科目

学系紹介

哲学基礎文化学系

哲学基礎文化学系は、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。たとえば、「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。か。「人間にとって宗教とは何か」、「美とは、芸術とは何か」。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。



▲左：西田幾多郎
右：アウグスティヌス『告白』の冒頭部分。
1491年シュトラスブルグで刊行された最初期の印刷本（インクナブラ）。文学研究科蔵

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実に努めている点も5専修の共通点です。文学研究科図書館だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所など近隣の施設にも豊富な文献や資料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総体的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあるといえるでしょう。

本学系は、京都大学文学部（当時は京都帝国大学文学科大学）創設以来、日本の歴史学・考古学の発展を牽引してきました。現在、日本国内はもちろんのこと、国際的にも研究と教育の拠点として、ますます重要な役割を果たしています。



▲左：文学部陳列館
右：織田信長朱印状

東洋文化学系

東洋文化学系では、日本・中国・インド・チベット等東アジア諸地域の文学・思想・宗教・言語などを中心に、広く時代を超えた研究を行っています。専門分野によっては、もう一歩踏み込んで科学や芸術、さらに現代のサブカルチャーまで足を踏み入れることになるかも知れません。基礎となるのは、なによりも文献資料の原典をきちんと読むこと。原文でしかわからない意味や美しさを理解するには、しっかりした語学力が不可欠です。研究を発展させるには、英・仏・独を始めとする外国語を駆使する必要も出てくるでしょう。

私たちは東洋に身を置き、東洋で生まれた作品群と日々向き合っています。しかしその過程で、しばしば外の世界から向けられた視線や、外の世界に根を下ろして新たな伝統を育む「東洋」と遭遇することになります。わかったつもりでいたことが姿を変えて再度眼前に現れるのです。そんな時、私たちは、人間が創造する文化の普遍性と独自性に思い至ります。東洋と世界はどのように関わるのか、歴史的伝統と現実はどうつながっているのか、文学や芸術の想像力はどんな世界を作るのか。正確な専門的知識、分野を超えた広い視界、その両者をあわせて考えてみてください。



▲左：中国語学中国文学研究室所蔵の貴重資料
右：デルグ版チベット大蔵経「般若経」

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず十分な語学力を養うことが大切です。ただ本学系での研究は語学の習得にとどまらず、そこから創造的な読解へと進んでいくことが共通の特徴です。また文学や言語文化について考察したい人、文学理論や批評に関心のある人にとっても最適の場所です。図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、意欲のある人にとって無尽蔵の知識の宝庫となるでしょう。本学系は長い学問的伝統を誇り、多くの優れた研究者を養成してきました。他方、卒業後に就職する人も大勢います。本学系で習得できる能力は語学力に限らず、幅広い理解力、読解力、コミュニケーション能力など社会生活の基本となるものであり、卒業生は報道、出版、流通、官公庁など多方面で活躍しています。



▲左：授業風景（スラブ語学スラブ文学）
右：授業風景（アメリカ文学）

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなり、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてももっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史専修は、自然科学という人間の営みを哲学的、史学的に研究しています。情報・史料学専修は、人文学と情報学が融合した新しい領域を開拓しています。二十世紀学専修は、20世紀の大衆文化とメディアを研究し、映像・画像研究やジェンダー論など多様な領域におよんでいます。現代史学専修では、現代史は世界史であるという観点から20世紀の歴史を研究しています。



▲左：文献研究用ツールSMART-GSで、手書きドイツ語日記から「幾何」という単語を探す。
右：寄託された大伴昌司資料の展覧会案内ビラ

卒業後の進路

ここ数年は、就職者が50～60％程度、大学院進学者が30％前後、他大学や各種学校への進学者が3％前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業、金融業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。

就職先の例

講談社／光文社／中日新聞社／京都新聞社／日本経済新聞／読売新聞社／JRグループ／シティ・コム／住友生命保険／日本生命／日本放送協会／日本郵政グループ／三井住友FG／川崎重工／関西テレビ／NHK／テレビ大阪／九州電力／中部電力／関西電力／公立学校教員／国家・地方公務員／私立学校教員 等

文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上に測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

Message

古きを愛す

京大を受験した理由は、個性的な人が多く、圧倒的に自由な大学だという話に心惹かれたからです。高校時代に京大生を主人公にした森見登美彦さんの小説『太陽の塔』を読み、更に憧れが強くなりました。

入学して感じたことは、京都は梅、桜、螢、紅葉、雪など1000年以上前に日本人が和歌で歌っていたものをそのまま自分の五感で感じられる場所だということです。そして先生方にも学生にも、それを感じ取る感性と、世間の流行に流されず古いものを慈しむ気風があります。

和歌の授業中、突然降りだした雪に教授が目を奪われ、学生も一緒に10分以上無言で窓の外を見つめていたこともありました。京大ほどのびのびとやりたいことをやらせてくれる大学は他にありません。ぜひ京大に入学し、この環境を味わい尽くしてください。

卒業生メッセージ

2014年 国語学国文学専修卒業
株式会社光文社 勤務
(天王寺高等学校(大阪府)出身)

山部 沙織 さん



自由を使い切ること

大学で何でもできるといわれたら、何をしますか。私の場合、サークル活動に打ち込んだり、海外の大学生と地域振興を考えたり、東南アジアでインターンシップに参加したり、国際協力団体のボランティアに参加したり、他学部・他学年の仲間とピッチコンテストに参加したり、思うまま様々なことにチャレンジしてきました。しかし辛い受験勉強のさなかにあった高校生時代、合格それ自体が解放であり、大学で掘むことのできる「自由」＝「チャンス」に気付くのは少し時間がかかりました。京都大学は、広く社会、世界に開かれたフィールドであり、自分の「やりたい」を一緒に実現できる、尊敬する仲間が集まっています。ぜひ、受験勉強の毎日に干からびずに、今から「やりたい」イメージを膨らませて、自由を使い切れるよう、楽しみに準備をしてください。

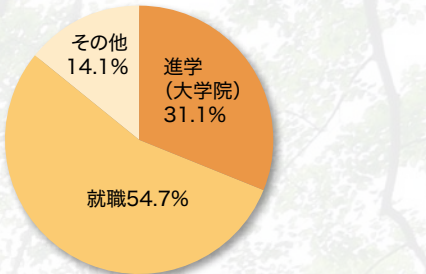
在学生メッセージ

アメリカ文学専修4回生
(嵯峨野高等学校(京都府)出身)

早坂 遊羽 さん



2013年度実績



文学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種 類	教 科
中学校一種	国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教

独創性は徹底的に面白がることから生まれる

表舞台で戦えるひねくれ者になりたい。私が京大を志した理由です。大阪の場末のスナックのママと、町工場のおっさんの間に生まれ、アウトローな大人たちに囲まれて育った私が、お堅いイメージのマスコミに就職し、ドロップアウトせず、かつ飲み込まれずいられるのは、京大の4年間で養われた「面白いものに対する鋭い嗅覚」と、些末とも思えるアイディアからも普遍的な問いを立てようとする「粘り強い探究心」です。自由すぎる校風ゆえ、勤勉さより独創性が是とされがちな京大生ですが、その独創性は己の閃きを信じ、もがき続ける泥臭さから生まれるのです。NHKでは長く若者向けの番組を作ってきましたが、視聴率至上主義にとられることなく、たった1人でも若者の人生を変えるような骨太な番組を作ること信条として、日々悪戦苦闘しています。

卒業生メッセージ

2003年 倫理学専修卒業
NHK青少年・教育番組ディレクター
(帝塚山高等学校(奈良県)出身)

細川 啓介 さん



わからないことを見つける場所

大学での学びは、高校までの勉強とはかなり異質なものでいいでしょう。うしろのページを見れば答えがすぐわかる、なんてことはありません。答えがどこにも見つからないもどかしさや、わからないことが次から次へと出てくるむず痒さを、何度も経験します。

けれどそういった経験を通じて、世界像が少しずつ広がっていくのを体感することには、何にも代えがたいおもしろさがあります。京大は、このおもしろさを日々感じることでできる場所だと思っています。わからないことをたくさん見つけ、知りたいたいと思ったことはとことんまで掘り下げることでできる素晴らしい環境が、この京大文学部には揃っています。

皆さんも、京大文学部で、わからないことをたくさん見つけてみませんか？

在学生メッセージ

西洋史学専修4回生
(青山高等学校(東京都)出身)

平賀 拓史 さん





Faculty of Education

人間らしさを擁護し促進する態度を養う

教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければならない。

そのため、教育学部では、心と人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部への誘い

2009年、教育学部は創立60周年を迎えました。それとともに、改修により学舎も一新され、新たな歴史への一步を踏み出しました。教育学部はこの60年、戦後日本の教育にかかわる諸科学と心理学の研究をリードしてきたのです。

教育学部は、教員養成を目的とした学部ではありません。現代の教育にかかわる諸問題を学問的に探究し、よりよき社会実現のための知と技法を開発し、その習得をめざした学部です。現代の教育の諸問題は、複雑な要因が多層に折り重なっています。その諸問題に正面から向き合い、その解明のために、心や社会、人間それ自体に関するさまざまな学問とその方法を学ばなければなりません。人間を深く探究する人文科学、社会の仕組みや動きを解明する社会科学、人間の心に関する諸科学など、教育学部には、多様な学問を学ぶことができますよう、3つの系が用意されています。その意味で、教育学部は「教育」という現実の主題を共有する「小さな総合学部」にほかなりません。

教育学部では、理論を実践に展開することと、そのためのフィールドを重視しています。学校に限らず、生涯を通じた人間の生成と変容を視野にいれ、21世紀に求められる新しい教育学と心理学の創出を目指し実績を上げています。少人数教育の徹底と、学問の多様さと、まとまりのよい一体感、これが教育学部の特徴です。

教育は未来を創る営みです。教育学部は未来にかかわる学問を学ぶ場です。変化の激しい現代は未来が見通しにくい時代。その分、教育にかかわる諸学問への期待と役割は、ますます大きくなっているのです。



▲授業風景

教育学部の教育

●学部教育の方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓発するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

●学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」推奨科目として「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をは

じめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

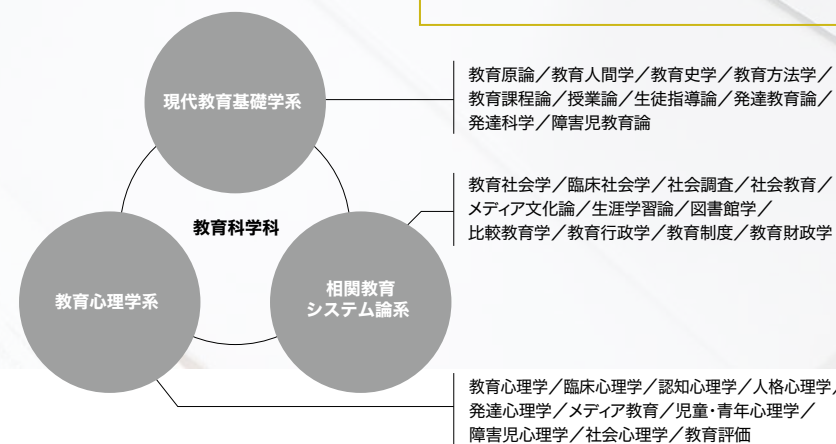
教育学部は、平成10年度から1学科(教育科学科)3大学科目(系)で教育編成を行っています。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。それぞれの大学科目(系)における教育内容は、次のとおりです。

教育学部では、入学選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育と

しての教養科目を受講することができます。

平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。



▲実習風景

学系紹介

現代教育基礎学系

この系では、教育という人間の営みについての原理や方法、その根底にある人間観、人間が文化、歴史、社会的存在として発達するプロセスに関する研究をおこなっています。根本的かつ複雑な人間の営みを問題とするため、この系の研究方法やアプローチは多岐にわたっています。哲学・思想研究、歴史学、人間学、方法学、発達理論など、広い視野での研究・教育が重視されている点が特徴です。

具体的には、以下のような問題を扱っています。

- 人間形成および教育に関する思考の枠組みはいかにあるべきか(哲学)
- 今日の教育の特徴は歴史的にどのような変遷のもとでできあがったのか(歴史学)
- 人間とは何かという問いとのかかわりで大人と子どもの関係はどのように捉えられるのか(人間学)
- 学校教育において、カリキュラムの編成や授業の実践はどのような仕組みと方法で行われるのか(方法学)
- 人間の生成や成長発達はどのように捉えられるのか(発達科学・発達理論)

現代教育基礎学系では、現代の教育や人間に関わる諸問題を学問的に読み解き、教育という営みが実演される日常の舞台においてそれを捉えなおすことのできる幅広い識見、力量の育成を目指しています。そのため、多様で充実したカリキュラム編成がなされています。

教育原理、教育哲学、教育史、教育人間学、教育方法学、教育課程論、授業論、発達科学、発達教育論、障害児教育論など

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組み、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動を行っています。

教育心理学では人の発達の特徴、教授・学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざします。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめます。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につけます。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備しています。

教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的にしています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

卒業後の進路

教育学部の平成25年度卒業生は63名で、そのうち33名(約52%)が就職しています。そのなかには教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、24名(約38%)が大学院に進学しています。残りの6名(約10%)は進学準備や就職準備となっています。

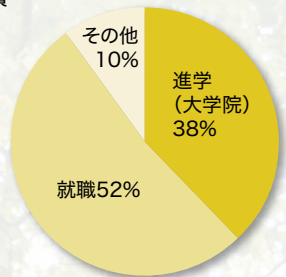
就職先の例

家庭裁判所／労働局／大阪府／横浜市／三井住友銀行／東京海上日動火災保険／テレビ愛媛／JR各社／九州電力／大阪ガス／サントリー／ベネッセ／駿河台学園／中・高等学校教員など

教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

2013 年度実績



その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

Message

小さくても深く広大な学びの場

教育学部って、何をするとところでしょうか。もちろん、教育や人間に関わる多様な学問に触れられます。お祭りだってやっちゃいます。しかしそれ以上に、日々身近に「人」や「人の活動」に触れる中で、自分や自分の生き方を見つめ直し続けられること。それが私の大きな財産になっていると感じます。本を読んだり、テストの勉強をしたりするだけではありません。出身地も経歴も、性格も異なる学部の仲間と毎日の生活から特別な時間までを共有することで、多様でリアルな価値観や知識をじっくり吸収することができるのです。

いま、私はCMや新聞などの広告の仕事をしていますが、情報や考え方が溢れる時代に、人と人・人とモノ・モノとモノの新たなコミュニケーションを生み出すため、日々努力中です。

教育学部にあるたくさんのお宝を、探しに来てみてはいかがでしょうか。

卒業生メッセージ

2013年 関連教育システム論系卒業
(株)博報堂 勤務
(修猷館高等学校(福岡県)出身)

福永 良太 さん



「人」についてじっくりと考えられる場所

私の中で京都大学教育学部への道が夢から目標に変わったのは、オープンキャンパスでこのような冊子を手にした時でした。心理学、教育学、社会学など様々な分野から、「人」について学べる点に魅力を感じたからです。中でも私は臨床心理学に興味を持ち、悩みを持つ人や生きづらさを抱える人たちの助けになればという思いで勉学に励んできました。

現在はより専門的な学びを求めて大学院に進み、うつ、発達障害、不登校など現代の心の問題に正面から向き合う日々を送っています。人の心はわからない、でもわからないからこそ面白いのだと思います。今後も研究者として、心理臨床の実践者として、人の心にアプローチし続けたいと思っています。

「人」についてじっくりと考えられる場がここにはあります。皆さんもぜひ教育学部に学びに来てください。

卒業生メッセージ

2013年 教育心理学系卒業
教育学研究科 臨床教育学専攻
修士課程2回生
(磐田南高等学校(静岡県)出身)

鈴木 優佳 さん



京大教育学部の魅力

僕は高校で理系に進んでから教育学部を目指したいと思い、理系入試のある京都大学を志望しました。今思うと本当にその選択をしてよかったなと思っています。

京都大学の教育学部は1学年60人と小さな学部で同じ学部の人と深くかかわることができます。大学に入学するまでの人生や将来の夢は人それぞれ違い、けれど同じ分野に熱い想いを持った人たちと共に学んだり語り合うことは本当に刺激になります。

また教育学部と一言で言っても様々な分野があり、自分の興味にそってその中から選んで学ぶことができる環境があるのも魅力だと思います。僕自身自分の学びたいことが学べていて、充実した毎日を送っています。

受験勉強では辛いときもあると思いますが、京大教育学部はその努力の価値が十分にあるところだと思います。ぜひ頑張ってください。

在学生メッセージ

教育学科2回生
(札幌南高等学校(北海道)出身)

吉田 圭一郎 さん



教育学部＝人間好きの集まる場

「教育」と言われると学校をイメージする方も多いと思いますが、この京都大学教育学部では単に学校教育だけにとどまらず、人間形成に関連のある人間の営み全てを研究の対象としており、実際に「人間好き」という方々が多く集まります。その営みの中でも何に対して興味関心を抱いているかは人によって様々であり、そんな彼らと質の高い交流や議論を行うことができる環境に身を置いていることで自分自身の視野が広がっていることを日々実感しています。また、1学年たった60人ということもあって非常にアットホームな空間が形成されており、同学年はもちろん、先輩や後輩、さらには院生やOBの方々と強いつながりがあり、他学部の方から羨ましがられることもよくあります。あなたも教育学部の一員となって私たちと充実した大学生活を送ってみませんか？

在学生メッセージ

現代教育基礎学系3回生
(東大寺学園高等学校(奈良県)出身)

池川 正明 さん





Faculty of Law

制度・組織の設計・運営を指導できる 人材を育成する

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

法学部への誘い

法学部は、明治32年(1899年)に法科大学として創設されました。それ以来、約36,000名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。創設当初から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

法学部では、特に戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して講座数および教員数を拡充してきました。平成4年(1992年)からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、それまで学部配置されていた講座を大学院に配置し、大学院講座の担当者が学部教育も担当するという組織変更を行いました。平成16年(2004年)には、法曹の養成を目的とした専門職大学院として、法科大学院を設置し、平成18年(2006年)には、経済学研究科と協力して、公共的な役割を担う高度専門職業人の養成を目的とした専門職大学院として、公共政策大学院を設置しました。

法学部は、国家や社会のあり方を見直し、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎え、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

法学部の教育

●卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学では、夏休みを境として、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しています。外国語およびスポーツ実習科目を除いて、半期週1回(90分)の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。

卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であるのに対して、専門科目には2単位科目と4単位科目があります。卒業するためには、教養科目を48単位以上、専門科目については演習2単位を含む80単位以上を取得する必要があります。

●第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、全学共通科目と法学部が提供する法学部基礎演習をいいます。全学共通科目は、人文・社会科学系科目群(A)、自然科学系科目群(B)、現代社会適応科目群(C)、拡大科目群(D)、外国語科目群(E)にわかれています。

卒業するためには、Aの科目群および法学部基礎演習から20単位以上、Bの科目群から8単位以上、Cの科目群から6単位以上(ただし、ABDの科目群の科

目による代替可)を取得しなければなりません。

Eの科目群は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上(うち2単位については法学政治学英語I・IIが必修)、その他の外国のうち1つを8単位以上取得しなければなりません。第1学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

これらの教養科目は、原則として、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1年生、2年生のことを2年生と呼びます。

●高学年になるほど専門科目の授業が増える

専門科目は、科目の内容に応じて、履修することができる学年に違いがあります。

まず、1年生のみが受講・受験することができる専門科目として、法学入門I・II、政治学入門I・II、家族と法があります。これらは、いずれも導入的な科目にあたります。

次に、2・3年生のみに配当される科目として、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部があります。さらに、2年生・3年生に加えて、4年生も履修することができる科目として、国際法第一部、刑法第二部と民法第二部があります。これらは、主として法体系全体の基本的な部分に相当する科目にあたります。

その他の専門科目は、原則として3・4年生に配当されています。ただし、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2年生も履修することができます。さらに、経済学部の一部の科目も履修することができます。

なお、専門科目には、毎年必ず開講される基本的科目と並んで、新しい法現象・政治現象、企業における法実務などに対応する特別科目も年度ごとに開講されています。

以上のほか、演習(ゼミ)は3・4年生に配当され、半期2単位で、6単位まで履修できます。少人数クラスで周知な予習に基づいた活発な討論が行われています。

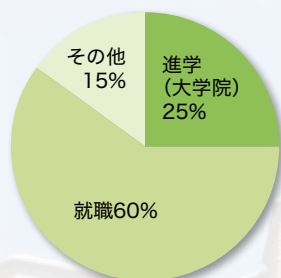
●科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成を通じて、1・2年生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として特に3年生以上で行うことを推奨しています。専門科目では、必修科目はありません。このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。ただし、学生に堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる単位数に上限を設けています(キャップ制といいます)。

卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約74%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の約25%が法学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。

2013年度実績



就職先の例

国家・地方公務員／日本銀行／三井住友銀行／三菱東京UFJ銀行／三井住友信託銀行／SMBC日興証券／野村證券／住友商事／大阪ガス／関西電力／東日本旅客鉄道／近畿日本鉄道／西日本電信電話／毎日放送／講談社／電通／トヨタ自動車／キャノン／楽天／日本たばこ産業／サントリーホールディングス／三井不動産

法学部で取得可能な資格

法学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例

教育職員免許状(中学校1種社会・高等学校1種公民)

京都大学法学部で学んでみて

4年間の本学部での生活は、かねてより抱いていた法律、政治、経済への興味関心をより一層深める上で大変有意義なものであり、現在の職業においても、本学部での経験は重要な財産となっています。

在学中、私は、興味があった国際政治経済と公法を中心とした科目を履修しました。授業や演習では、自由な学風そのままに、従来の考え方に囚われない、発想力豊かな教授・学友に恵まれ、刺激的な日々を送ることができました。現在国家公務員として勤務していますが、こうした発想力・思考力を求められることが多くあり、京大法学部での経験が生かされています。

本学部は、法学・政治学に関する柔軟な発想を培う最適な場だと思います。実務・研究問わず、こうした分野に携わりたいと考えている皆さんには、是非本学部で学んでいただきたいと思います。

卒業生メッセージ

2010年 卒業
外務省 勤務
(清風高等学校(大阪府)出身)

門脇 史弥 さん



目の前の事を大事に

京大法学部には法曹・官僚志望者を筆頭に、志の高い学生が多くいます。一方で僕のようになんとなく法学部を選んだ人は彼らに引け目を感じることもあるかもしれませんが、決して焦る必要はありません。

大事なのは自分が居る場所で頭を働かせてベストを尽くすことです。その過程で得られるものが自分の肥やしとなり、いざ将来の目標が決まった時にも力になるはずです。

僕自身、所属するバスケサークルで勝利にこだわって活動する中で多くの事を学びましたし、学部の繋がりをきっかけに現在トルコの大学に交換留学し、充実した日々を送っています。

受験生の皆さんもまずは目の前の勉強に全力で取り組んでください。目の前のやるべきことにベストを尽くした人にしか来ないチャンスは確実に存在します。皆さんがそれを自分の力で掴み取れるよう応援しています。

在学生メッセージ

法学部4年生
(麻布高等学校(東京都)出身)

佐々木 優 さん



「自分で考える力」を育む環境

京都大学法学部は、とにかく自由です。しかし、単位認定は厳格です。自分で学び、理解を深めておかねばなりません。自分で学び、考える中で、京都大学法学部の誇る環境のすばらしさを感じることができると思います。

私が京都大学で学んだこと、身につけたことは、法律の知識だけではなく、自分で調べ、自分の頭で考え抜き、仲間や先生方と議論を交わしていくという姿勢、そして、その過程で鍛えられた「自分で考える力」です。この力は、裁判官という現在の自分の仕事に生かされていると感じています。

「考える力」は、法律家に限らず、どんな職業につくとしても助けになるものです。みなさんにも、恵まれた環境の中で、多くのことを学び、吸収しながら、「考える力」を鍛え、自分の可能性を広げてほしいと思います。

卒業生メッセージ

2010年 卒業
2012年 法科大学院
(法学研究科法曹養成専攻)修了
広島地方裁判所 勤務
(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎(大阪府)出身)

田中 佐和子 さん



学生生活を、京大で!

受験生の皆さん、初めまして。法学部4年生、永井和樹と申します。大阪の天王寺高校出身です。学生生活ではアルバイトに注力しつつ、交渉サークルINCに所属し、ビジネス上の法利用に取り組んできました。他にもバイクでのツーリングや居酒屋名店発掘等を通し、刺激的で楽しい日々を送っています。自由の多い学生生活ですが、特に京大の学生は能力も意欲も高い方ばかりで、やろうと思えば何でも出来ます。私は、法を学ぶだけでは物足りないと感じ、3年生からサークル活動を始めました。皆さんも無事合格された際は、様々なことに興味を持ち、やりたいこと、共に努力する仲間をどんどん見つけて下さい。京大の学生は、皆さんの期待を上回る形で応えてくれるはずです。残りの時間、京大での学生生活を目指して、精一杯努力して下さい。応援しています!

在学生メッセージ

法学部4年生
(天王寺高等学校(大阪府)出身)

永井 和樹 さん



法学部4年間の学生生活イメージ





Faculty of Economics

未来を切り拓く柔軟な思考力と創造力を培う

経済学部が望む学生像

経済学部の教員たちは、経済学・経営学の教育は、すぐに役立つ知識を与えることではなく、学問的基礎のうえに柔軟な思考力と創造性を備えさせることだと考えています。そのため、大学において意欲をもって学び、社会に出てからの経済活動においても自分を成長させ続けようとする学生を望みます。経済学部は、これまで、産業・経営・学術・行政などの領域で活躍する人材を多数生み出しました。経済学部は、このような良き伝統を継承し、そこに自分なりの発展を付け加えようと意欲する学生諸君が入学してくることを望んでいます。

なお、経済学部は、平成21年度入試から高等学校の文系の教育課程に対応した一般学力検査による選抜(190名)だけでなく、理系の教育課程に対応した学力検査による選抜(25名)、論文を重視した選抜(25名)にも定員の一部を割いています。それは、数学などに現れる理科的才能や読解力と結びついた論文作成に現れる文科的な才能が経済学にむすびつくことを期待しているからです。

経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919(大正8)年に法学部(法科大学)から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899(明治32)年から経済学関連の講義がスタートしていたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけではなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習(ゼミナール)制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。



▲授業風景

経済学部の教育

●4つのコースを設置

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経済経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっています。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱと年次配当によって階層化されています。

●第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、全学共通科目によって語学学習や教養学習を行うだけでなく、入学したばかりの学生に、不足し

3. 固定相場制と

固定相場制(数量調整)

外国為替市場における外貨(ドル)を、通貨当局が公定価格($S1 = \text{¥}$)とすること(為替平衡操作=為替介入)の制度。

⇒外貨準備の大きさは、受動的

変動相場制度(価格調整)

外国為替市場における外貨(ドル)を、為替レートの変化($S1 = \text{¥}36$)の制度。

⇒外貨準備は、原則として、必

た知識を補い、自立した学習力をつけさせるための「入門演習」と9つの入門科目(ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、基礎統計学、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、情報処理入門)によって、経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。

●第2学年から学ぶこと

第2学年からは「専門基礎科目」及び「専門科目Ⅰ」の授業群、第3学年からは「専門科目Ⅱ」の授業群が取れるようになります。

第3学年以上になると、経済学・経営学の専門科目だけでなく、法学部が提供する法学や政治学の科目も取れるようになります。また、高度な学習を求める学生には、大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

●少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習(ゼミナール)です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的テーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく

共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉強意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

●「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできる場所が京都大学経済学部です。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし、現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基づいて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だったようです。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測るなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計など、応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するただに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては、通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知っていますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに90余年の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学会のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界、実業界のトップリーダーも少なくありません。

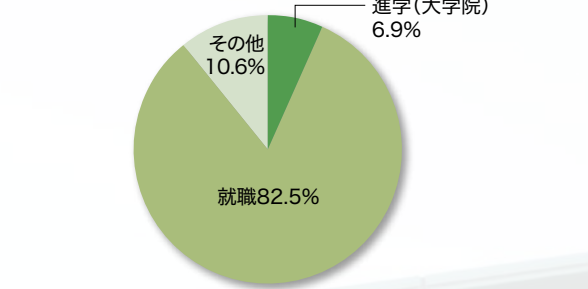
就職先の例

みずほフィナンシャルグループ／SMBC日興証券／伊藤忠商事／三菱東京UFJ銀行／関西電力／京都銀行／日本生命保険／日本放送協会／商船三井／丸紅／住友商事／トヨタ自動車／野村證券／みずほ銀行／三井住友銀行／三井住友信託銀行／三菱商事／有限責任あずさ監査法人／財務省／総務省／国土交通省／厚生労働省／府県庁／市役所

経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

2013年度実績



経済学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種 類	教 科
中学校一種	社会
高等学校一種	地理歴史、公民、商業

Message

“チャレンジ”できる場所

経済学部では自由な学風の下、様々なことにチャレンジできることが一番の魅力だと思います。私の学生生活を思い返すと、ポートと会計士の勉強に尽きます。日本一を目指して合宿所に泊まりがけでポートの練習に励む傍ら、予備校に通い休憩時間で勉強をやるという、今思えばだいぶ無茶なことをやっていました。こういう生活があってこそ、私は自分のやりたいことに一生懸命になることの大切さを学べたと思います。今の生活でも面白いと思ったことはすぐに取り入れ、行動してみようというスタンスは変わっていません。私にとって大学はいろんなことを経験でき学べる場だと思っています。皆さんも自ら進んで学び行動し、この経済学部の環境でいい大学生活を満喫してほしいと思います。

卒業生メッセージ

2012年 卒業
有限責任あずさ監査法人 勤務
(膳所高等学校(滋賀県)出身)
島本 大地 さん



自分で考える大学生活

京都大学の「自由の学風」、四年前の僕も、当然のようにその魅力に惹かれました。そして、中でも最も自由なこの学部を選んだのは自然なことでした。京都大学経済学部には必修科目が無く、自分の興味や求める授業外の時間に合わせた授業の履修が許されています。そのため、バイト、サークル、資格取得、留学などに自分が思い描くまま時間を使うことができます。その中で僕は、サークル活動でのテニスと資格取得に打ち込み、また、授業では、一流の講師の方々、一流の学友たちと関わる事が出来、京都大学ならではの充実した大学生活を送れました。学友たちも方向は違えど、各々充実した京大生活を送っています。皆さんにも、京都大学という自由な環境で、やりたいことを見つけ、他では出来ない大学生活を送ってもらえたら、と願っています。

在学生メッセージ

経済経営学科4回生
(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎(大阪府)出身)

高岡 義邦 さん



Enjoy!

私は現在、総合商社で働いています。グローバルな社会貢献を目指す業務は多岐にわたり、非常に刺激がある一方、未知の領域に日々挑戦する必要があります。私自身、ペットや畜産動物の健康を通じて人々への癒しや食の安全の提供を目指す事業を担当していますが、学生時代には想像もしていなかった分野です。しかし、どんな時でもベースとなっているのは、間違いなく経済学部時代の経験です。勉学のみならず、先生、友人から人として多くの刺激を受けました。経済学部の自由な学風においては、何をするにも自分次第だと思います。特定分野を追求するもよし、広範な知識の習得に努めるもよし。学生時代だけでなく、将来に繋がる大きな一歩になるでしょう。Enjoy your life!

卒業生メッセージ

2009年 卒業
住友商事株式会社 勤務
(甲陽学院高等学校(兵庫県)出身)
藤井 翔 さん



自由な時間が個性を生む

京都大学経済学部の特徴は、学生が時間を完全に管理できることです。経済学部の履修登録は必修科目がなく、幅広い選択肢から時間割を個人でアレンジするため、時間を学生が管理できます。時間を授業、自学、サークル、バイトのどれに使うかが、「自由」です。その結果、学生は幅広い選択肢から興味分野を見つけ、時間を投資し、個性を突出させていきます。さらに、鋭い個性は周囲への刺激となり、新たな独自の個性が生まみ出されています。私個人としても、友人の専門知識から金融工学に興味を持ち、様々な背景を持つ友人とともに理解を深め合う現在の環境に満足しています。自由な時間管理から生まれた個性的な学生は、議論を交わすと必ず学びがあります。ぜひ皆さんも刺激ある京都大学の学生生活を満喫してほしいと思います。

在学生メッセージ

経済経営学科4回生
(西京高等学校(京都府)出身)

前田 哲志 さん





Faculty of Science

自然への疑問。自然からの声。 そして自然の理に学ぶ。

理学部が望む学生像

- 自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- 自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- 優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

理学部への誘い

自然はどのようなになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人たちが、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

京都大学理学部は理学科のみの一学科制をとっています。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野をいくつも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境のもと、常に新たな教育・研究のプロジェクトが計画・遂行されています。



▲理学部6号館



▲地球熱学研究施設



▲数理科学系授業風景

理学部の教育

●理学部の教育理念

教育目標

- 自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- 個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- 自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- 理学科のみの1学科制
- 緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

●理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と専門基礎科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目と、学部科目のうちの専門基礎科目を主として履修します。全学共通科目は、全学部・研究所・研究センターの教員が全学部の学生を対象に開講されている科目で、次のような5つの科目群に分類されています。

- 人文・社会科学系科目群
- 自然・応用科学系科目群
- 外国語科目群
- 現代社会適応科目群
- 拡大大科目群

このうちの自然・応用科学系科目群には、理学部クラス指定科目など理学部教員が担当する科目も多数含まれています。また、専門基礎科目は自然科学の基礎的事項を扱い、専門科目を履修する上での

基礎となる科目です。

これらの講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験・実習など様々な形の授業科目があり、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身に付け、人間としての視野を広げるように工夫されています。

2年次の終りに系登録をする。

理学部には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系: 数学
- 物理科学系: 物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系: 地球物理学、地質学・鉱物学
- 化学系: 化学
- 生物科学系: 動物学、植物学、生物物理学

これらの系への登録は2年次の終りの時期に行います。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終りまでに修得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあったり、理学部での学習での様々な不安や問題について相談できるように、1、2年次では理学部の2人の教員が担任となる少人数クラス(1クラスの学生は10数名)が設けられています。そのほかにも学生生活や進路などの悩みについて相談できる理学部相談室もあります。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

3年次では、上の5つの系のいずれかに属し、その系で提供される専門基礎科目・専門科目(演習や実験などの科目を含む)を履修します。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。また専門科目には卒業に認められる履修単位の上限がありません。これは広く浅く学ぶことを勧めることを意図しているのではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めていき、各自に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修しやすくするためのものです。

4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では卒業研究として、数理科学系では数学講義、その他の系では課題研究と呼ばれる科目を履修することが必修になっています。この科目では、学生は個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力を身に付けます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次からの大学院への飛び入学について。

大学院理学研究科の数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績で修得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、博士後期課程において特に優れた研究成果を挙げた者については、修士課程と通算して5年未満の在学中で博士の学位が授与されることがあります。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを目指す学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いて来ましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、あるいは物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性格により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、代数的位相幾何学、微分位相幾何学、微分幾何学、力学系、複素多体論、複素関数論、表現論、函数解析、微分方程式論、確率論、代数的解析・数理物理学、作用素理論、計算機科学、応用数学、保険数学



▲数理科学系の講義風景

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から最遠方銀河まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー分光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、時空間・生命物理、ソフトマター物理、非線形力学、凝縮系理論、相転移動力学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、素粒子物理学、宇宙線物理学、素粒子論、原子核理論、天体核物理学、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学



▲課題研究における実験。放射光を利用した流体金属のコンプトン散乱実験で、試料の加熱機構を院生がセットしている様子。

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育しています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、岩石学、鉱物学、地層学、地史学、宇宙地球化学



▲3年生向けの地質調査実習の様子。花崗岩（茶色）と結晶片岩（黒色）の境界を成す、日本最大級の断層「中央構造線」の変形構造を観察する。

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象とし、すから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

固体物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光学、光物理化学、分子構造化学、電子スピン化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、遺伝子動態学



▲化学系の実験風景

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、動物行動学、動物生態学、動物発生学、環境応答遺伝子科学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、ゲノム情報発現学、理論生物物理学、分子生体情報学、神経生物学、構造生理学、分子発生学

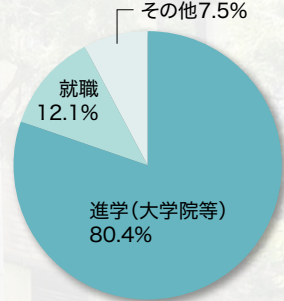


▲島島実験地（和歌山県白浜町）における2回生向け臨海実習の様子。磯の生物の多様性を観察し把握する。

卒業後の進路

理学部を卒業後、大学院に進学する者が全体の5分の4以上、また、民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。
なお、理学研究科で博士の学位を取得するものは毎年100名程度です。

2013年度実績



就職先の例

アイパッション／アトモスエネルギー／インターネットイニシアティブ／大阪府立高等学校／かんぽ生命保険／京都信用金庫／京都府立高等学校／近畿管区警察／賢明学院中学高等学校／サイバーエージェント／静岡県公立高等学校／昭和シェル石油／新関西国際空港／新日鐵住金／数研出版／駿河台学園／第一生命保険／ディー・エヌ・エー／テクノプロジェクト／東京ガス／西松屋チェーン／日本気象協会／日本コントロールシステム／野村証券／野村総合研究所／白山野／市広域事務組合／広島県公立高等学校／富士重工業／フリー／マッキンゼー／三木学園白陵中学校・高等学校／三井住友銀行／三菱東京UFJ銀行

アクチュアリーサイエンス(保険数学)とは

アクチュアリーサイエンスとは、保険や年金などにおける将来のリスクや不確実性の分析・評価の方法を、数理的手法を用いて研究する学問分野です。数理科学系では、日本アクチュアリー会との連携のもと、企業で指導的な立場でアクチュアリーとして豊富な実務経験を持つ5名の客員教授を招聘し、学生が、生命保険や損害保険についての講義・演習を通してアクチュアリー試験のための基礎知識を修得することができるようになっています。

Message

やりたいことが見つかる場所

私は高校生の時、物理・化学・数学が好きでしたが、どれを大学で勉強していくか決めかねていました。そのため、緩やかな専門化という特徴がある京都大学理学部でより深く勉強してから決めたいと思い受験しました。
実際に入学して、数学・物理・化学・生物・地学などの基本的なことを幅広く学びました。その中の基礎生物学の授業で私は、暗記科目だと思っていた生物学のイメージを覆されました。それからどんどん生物学の楽しさに引き込まれ、系登録でも生物系を選択しました。そして今でも世界トップレベルの研究室で日々楽しく実験しています。
理科・数学が大好きな皆様、今はまだやりたいことがはっきりと分からなくても、京都大学理学部で様々なことに触れて、学んでみてください。楽しいと思えること、やりたいと思えることがきっと見つかるはずです。



卒業生メッセージ

2013年 生物科学系卒業
理学研究科生物科学専攻修士課程2回生
(茨木高等学校(大阪府)出身)

玉田 健太郎 さん

地学の授業への誘い

太陽の下、雲の下、地面の下で実際に自然現象を観測するのはいかがでしょうか。大学では椅子に腰かけてただ講義を聴くだけではなく、教室から飛び出して観測に行く機会がたくさんあります。私は阿蘇や別府に2回ほどお世話になりました。大変印象に残っているのはガスマスクを付けているのを忘れるほど強烈な硫黄のにおいの中、湖岸の淵から見た鮮やかなエメラルドグリーンの巨大なカルデラ湖の光景です。当然ながら、火山の本や写真で見るとずっと迫力があり迫ってくるようです。におい、触感、スケール感覚といったものは教室で行う講義ではなかなか得られないと思います。なにより自然の中で体を動かして観測をしたり、直接自然現象を観察するのは楽しいですよ！京大には阿蘇や別府、湖畔などに観測施設があり、学部の授業でも利用しています。自然科学が好きな方はぜひ進路選択の参考にしてみてください。



在学生メッセージ

地球惑星科学系4回生
(長岡高等学校(新潟県)出身)

小林 和貴 さん

自由の学風を享受

京大の自由の学風を最もよく体験できるのが理学部だと思います。例えば理学部には必修科目が存在せず、私の専攻は化学ですが学部生時代は化学以外にも物理や数学の専門科目も履修しました。このおかげで広い視野を持って進路を決めることができましたと思います。
現在私は有機化学を専門にし、新規機能性分子の合成に励んでいます。研究室では先生方の指導の下、日々の実験計画から次の実験内容まで自分自身で決めて研究を行っています。この環境に身を置いて1年ですが、既にいくつかの「世界で初めての分子」を合成することができました。このように常に世界の最先端の研究に触れることができるのは大きな経験だと思います。今後は将来研究者になることも視野に入れつつ研究を楽しみたいと思います。
皆さんも是非京大に来て自由の学風を体感してください。



卒業生メッセージ

2013年 化学系卒業
理学研究科化学専攻修士課程2回生
(灘高等学校(兵庫県)出身)

福井 識人 さん

いい意味でのオタク集団？

実際に入学してみて、女の子は少ないし、オタクっぽい人多いし、「この環境でやっていけるのかな」と不安になりました。他の学部の人からも「変わった人や個性豊かな人が多いね」と言われます。しかし京大理学部には、自分の夢中になれるものをとことん追求することができる人たちが多いのだと感じます。そのような人たちに囲まれて刺激を受け、私も数学だけでなく興味をもったことは何でも没頭するようになりました。大学最後の1年も思いっきり数学に打ち込み、自分の好奇心を満たしたいと考えています。大学では好きなことに没頭したい人も、夢中になれるものをまだ見つけていない人も、こんな環境と人がいる理学部を進学先の1つとして考えてみてください。



在学生メッセージ

数理科学系4回生
(奈良高等学校(奈良県)出身)

丸山 優希 さん



Faculty of Medicine

新医学領域の開拓と革新的医療の創成

医学部が望む学生像

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種の専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務としています。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間です。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命です。



▲ハイブリッド3 T-MRI手術室での実習風景

医学科の教育

医学科のカリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための講義と実習などを基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般を学び、経験します。基礎医学では、生命科学ならびに医師に必要な解剖学・生理学・生化学・病理学・法医学などを学びます。社会健康医学では、個人に対する医療だけでなく、社会全体に対する医学の応用を学びます。臨床医学は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習を通じて、基礎となる理論と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD-PhD コースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。この他にも、研究者になる種々の道が用意されています。

このような学生の学習を促進するために、京都大学では医学教育推進センターを設けて、教育改革を推進しています。

●医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限に伸ばし、医療や医学研究の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には専門知識の習得と同時に、その知識を論理的に使って問題を解決する能力や、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性および人間そのものに対する深い洞察力を必要とされます。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方で、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療

法の開発などを旨とする医学研究も重要です。また、医療制度が育って立つ人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このような分野ですぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓越した能力が必要です。京都大学には、国際的にも卓抜した研究業績を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を育成する環境がかたちづくられています。

●生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけては、「全学共通科目」の履修が主体となります。並行して、医療人の素養をはくむ取組や研究マインドを育成するチャレンジが始まります。

基礎医学の履修は、第3学年から本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていきます。同時に、京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。

世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。このため、早い時期から海外で研究を行う学生もいます。

●実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できるリーダーとしての人材を育成することが強く求められています。臨床医学は主に第4学年の授業で学び、第5・6学年では病院での実習を行っています。京都大学では、この実習をより参加型にする改編を行っています。

医学部附属病院には、世界や日本の医学をリー

ドする医師が多数います。また、近年多くの新しい部門、設備が加わりました。例えば基礎医学との橋渡しとしての臨床研究センターが役割をはたし、いち早く患者さんに最先端の医療を届けています。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークも機能しています。初期診療・救急医学の部門も整備され、多くの救急患者さんを助けています。移植医療や、分子治療、あるいはiPS 診療部など最先端の医療が京大病院にはあり、世界の最先端を経験できます。新しくがん専門病棟が構築されるなど、さらなる整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設です。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これら密度の高い臨床教育を通して、最新の医療とその発展に貢献できる人材育成をめざしています。



▲メディカルイノベーションセンター

基礎医学研究者(MD研究者)の育成

MD-PhD コース

1年次より研究室を廻り、各々の研究室での研究活動に参加するラボ・ローテーションを行い、4年次修了時点で学部を休学して大学院博士課程へ進学、医学研究に専念し、早期に医学博士の学位を取得後、学部5年次へ復学するカリキュラムです。



▲MD-PhD コースでの活動風景

基礎医学研究者育成プログラム

東京大学、大阪大学、名古屋大学、京都大学の4大学が合同で、長期的視点で基礎医学研究者の育成プログラムを開発すべく、医学分野における教育体制の強化と研究の活性化に取り組んでいます。

1年生全員を対象としたプライマリーコースは医学科のカリキュラムに組み込まれており、アドバンストコースでは選抜された学生20名程度を対象に論文精読会、基礎医学セミナー、ラボ・ローテーションでの研究成果発表、短期海外留学や学会参加へのサポート、4大学合同リトリート、コンソーシアムを組む連携大学間(福井大学、滋賀医科大学、神戸大学、京都大学)でのリトリート・交流会を行っています。



▲コンソーシアム大学間リトリート

ラボ・ローテーション

1年次後期より6ヶ月単位で研究室を廻り、各々の研究室での研究活動に参加します。ラボ・ローテーションを通じて、医学研究のさまざまな分野と手法を広く見聞し、講義だけでは分からないそれぞれの研究の実験を体験、その中で自分の研究者としての適性を判断し、性分にあった実験手法と分野を見いだすことを目的としています。さらに、多くの教員と身近に接することにより人的ネットワークを形成することができます。



▲「医学概論」講義風景



▲学内風景

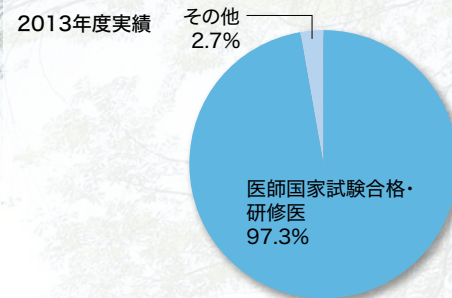
医学部においては、基礎医学研究者を育成するための道が種々用意されています。

卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の卒後臨床研修を行います。

医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者には、厚生労働省が実施する医師国家試験の受験資格が与えられます。



カリキュラム概要

1 回 生	2 回 生	3 回 生	4 回 生	5 回 生	6 回 生
教養科目 (全学共通科目) 人文・社会科学 自然・応用科学 外国語科目 など		専門科目 基礎医学 社会医学 臨床医学 マイコース・プログラム		臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	
				臨床実習	

Message

ふしぎだと思うこと

私は医学部で一通り基礎医学、臨床医学を学んだあと、臨床研修を受けました。医療現場でどのように患者さんが現れ、治療が進んでいくかを体験しながら、臨床のベース、実務、医療の社会的な面を勉強しました。臨床的な力がつく達成感はありませんが、「どうしてそうなるのか」という素朴な疑問は残り続けました。忙しい臨床現場では「当たり前」「考えても治療の変更が起こらない」として流されていることがあります。また、疾患として臨床現場に現れないことでも冷静に考えるとどうしてかわからないことはさらにたくさんあります。自分自身で素朴な疑問に少しでもチャレンジしたい、と思い大学院に進学しました。自助努力する学生を力強く支えてくれる「自由の学風」こそ、京都大学の最大の魅力です。

卒業生メッセージ

2011年 卒業
医学研究科 医学専攻 博士課程1年生
(四天王寺高等学校(大阪府)出身)

西村 知華 さん



場としての京都大学医学部

学びの中の大きな経験は、2回の海外留学である。どちらもそれぞれ基礎医学と臨床の最先端を識ることができた。研究室に通う学生であったわけでもないのに、京大の度量には驚かされる。この経験は言うまでもなく、確とした礎となっている。人材という意味でも、この6年間は刺激を受け続ける日々であった。おのおのが自身の興味のあるところに全力を傾けられる環境はめったにない。多種多様な人との交流は視野を広げてくれ、臨床の現場に出てからはおおいに役立っている。昨今の社会的要請もあり、京都大学の教育環境は私がいたころとは大きく変わり始めていると聞き、多少うらやましく思う。学びや出会い、「場」として京大はあまりにも広い。そんな京都大学医学部で、そしてそこから皆さんが大きく羽ばたかれることを心より祈っております。

卒業生メッセージ

2014年 卒業
京都大学医学部附属病院 研修医
(甲陽学院高等学校(兵庫県)出身)

鹿子島 大貴 さん



医師になる最良の環境

良い医師になるために必要なものとは何でしょうか？私は「知識」と「協調性」であると思います。そして京大はどちらも高めることができる場所です。京大では「知識」を高めることができます。大学の授業では超一流の先生が最先端のことを教えて下さります。また、私の友人には海外に留学して基礎、臨床医学について学ぶ人や、国内で研究する人など様々な人がいます。私の場合は、秋からマイコースで眼疾患治療研究について学ばせていただく予定です。また、京大は「協調性」も身につけることができる場所でもあります。私は部活動では硬式テニス部に所属しており、部員同士はもちろん他大学の人も交流が盛んです。このように京大では良い医師になるための素晴らしい環境がそろっております。皆さんが入学される日を心からお待ちしています。

在校生メッセージ
医学部医学科4年生
(灘高等学校(兵庫県)出身)

内富 大貴 さん



「意識とは何か」に迫りたい

高校の頃は主に部活をやっており、進路について真面目に考えた記憶は無いですがなんとなく人の心の動きというものに興味をもち、「研究するなら京大だろう」ということで志望するに至りました。しかし勉強不足がたたって2回も落ちてしまい、2浪の末無事入学することが出来ました。2浪目は宅浪しておりましてなかなかしんどかったです。それでも乗り越えることが出来たのは、「心の動きを解明するんじゃ！」という強いモチベーションがあったからだと思います。無事入学したのちは薬理の研究室で実験のお手伝いなどをさせていただきつつ、自分のプロジェクトのようなものを任せて頂いております。現在のテーマは「幸せとは何か？」ということとその神経回路を明らかにすることを目標にやっております。もっと大きな目標としては心の動きについて、存在するならばその一般法則を明らかにしたいと考えております。

在校生メッセージ
医学部医学科4年生
(広島大学附属高等学校(広島県)出身)

原田 征弥 さん





School of Human Health Sciences

語らいから学びあい…創りあげる

人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育課程の中心として取り上げ、新入生から「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療に積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

授業科目の区分

人間健康科学科の授業科目は、全校共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全校共通科目は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部人間健康科学科全専攻の学生個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

●セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

●全校共通科目

人間健康科学科では卒業に必要な単位数を専攻毎に定めています。各専攻によって、特に履修を要する科目があります。

●専門基礎科目

専門基礎科目は、「専門基礎」と「臨床基礎」で構成され、医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、多専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全校共通科目と並行して第Ⅶセメスターより第Ⅳセメスターまでに、人間健康科学科の学生は多専攻共通で履修することとなります。

専門基礎は、人体構造、人体機能、健康科学、専門基礎Ⅰ、専門基礎Ⅱ、専門基礎Ⅲから、臨床基礎は、内科系臨床概論、外科系臨床概論、臨床各論から構成されています。全校共通科目として開講される臨床コミュニケーション論(看護・理学・作業対象)、リハビリテーション概論(理学・作業対象)は、該当専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

●専門科目(看護学専攻)

看護学専攻では入学時から専門科目を開講します。第Ⅰセメスターでは「基礎看護学」「看護カウンセリング論Ⅰ」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第Ⅱセメスターでは「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。第Ⅲ・Ⅳセメスターは「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学

技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第Ⅲセメスター以降は、成人、精神、母性、小児、在宅、地域の各専門領域の講義、演習、実習を開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第Ⅶ～Ⅷセメスターでは「在宅」と「地域」の演習と実習「統合実習」と「統合看護(卒業論文)」を開講します。第Ⅵセメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、4年間の学習を統合し看護学を深めていくことができるようにしています。

●専門科目(検査技術科学専攻)

第Ⅰ・Ⅱセメスター(1年次)は、全校共通科目にて幅広い教養と見識を培う時期です。専門科目としては、医用イメージング概論(第Ⅱセメスター)のみが配当されています。

第Ⅲ・Ⅳセメスター(2年次)においては、基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に把握する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場でも必要となる基礎医学を学習します。

第Ⅴ・Ⅵセメスター(3年次)では、臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

第Ⅶ・Ⅷセメスター(4年次)には、指導教員のもと各自が卒業研究を行います。また、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、臨床実習として京都大学医学部附属病院の検査部、放射線部、病理部、輸血部、及び総合解剖センターにおいて、少人数単位で体験します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策はもちろん、

チーム医療教育、地域医療、医療の国際化など幅広い医療に関する問題、医工連携等に直結する学習を行います(臨床実習など)。

●専門科目(理学療法学専攻)

理学療法学専攻では、第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めます。

第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、運動機能評価学実習、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床評価実習および臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実践を経験します。臨床実習終了後、第Ⅷセメスターにかけて卒業研究と理学療法特論各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

●専門科目(作業療法学専攻)

作業療法学専攻では、第Ⅰ・Ⅱセメスターで全校共通科目、専門基礎科目と平行し、作業療法適応学原理、作業学や臨床実習Ⅰ(早期臨床体験)により、作業療法への興味を深めます。第Ⅲセメスターでは作業分析学、作業療法評価学総論など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の3領域の見学実習(臨床実習Ⅱ)など、専門課程を学ぶための基盤づくりを行います。

第Ⅳから第Ⅵセメスターにかけては、作業療法評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第Ⅶセメスターで、講義や実習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習(臨床実習Ⅲ)を行います。第Ⅶ・Ⅷセメスターでは、より高度な臨床応用力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨床実習Ⅳを通して学び、卒業研究で将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

学 年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科 目	全校共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目(全専攻共通)				・看護学専攻		・理学療法学専攻	
					・検査技術科学専攻		・作業療法学専攻	

▲実習風景：理学療法学専攻

専攻紹介

看護学専攻



看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む21世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生み育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

理学療法学専攻



理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成します。

理学療法学専攻の教育目標のひとつは、科学的な根拠のある医療(Evidence Based Medicine：EBM)に基づいた判断ができる理学療法士を育てることにあります。本専攻における教育の他に例のない特徴は、四年次の臨床実習終了後、「症例検討セミナー」や「運動機能解剖セミナー」など、より臨床的な理学療法学への理解を深めることを目的とした演習科目を設けていることです。臨床実習後に教員の指導のもと、専門的な理学療法を大学病院で学ぶ「症例検討セミナー」や実践に役立つより専門的な「画像診断・整形外科セミナー」、実習で興味を持った解剖学に関して、さらに理解を深めるために解剖実習を行う「運動機能解剖セミナー」、卒後の臨床研究に役立つ定量的な運動解析手法を学ぶ身体「運動解析セミナー」などがあり、これらのセミナーや卒業研究などを通して科学的なものの見方を養い、実践的な問題解決能力を育成します。

また、本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されることです。大学院修士課程、博士後期課程が併設され、幅広い領域で研究活動が行われています。熱意ある卒業生が直接あるいは現場での問題意識を持って大学院に進学し、先端医療技術の開発に貢献する世界レベルの研究者を育成することを目標としています。また、その他にも理学療法士の資格を十分に活用して、医療機関や、保健・行政機関、教育機関など幅広い分野でリーダーとして活躍することが期待されます。

理学療法学専攻においては、このような近年の多様なニーズに対応すべく広い視野を持って保険・医療・福祉の幅広い分野で問題解決能力を発揮してリーダーシップをとれる人材を育成しています。

検査技術科学専攻



検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工医学の3講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しうる研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる生理的および病理学的基礎情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育・研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

高度先進医療を支える生体医療情報解析において画像診断機器とそれを用いた画像診断技術が必要不可欠です。これらの診断機器や技術を開発・導入するうえでは、医学・医療分野の知識に加えて機器開発の基礎となる医用工学技術や情報科学の理論をも習得した人材が必要です。このような人材を育てるため、情報理工医学講座では、医工融合分野における最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

作業療法学専攻



ひとの日々の生活は、身辺処理や生活管理など生活を維持する活動、職業や家事・育児・学業などの仕事に関する活動、遊びや余暇とさまざまな活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来とし、生活に障害をもたらします。

作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、臨床教育と研究を行います。

生活を科学する作業療法

作業療法は「適応の科学」と言われ、病や障害により日々の暮らしに支障を来している人々に対し、自律して生活に適応する能力の発達・回復・開発・維持を援助します。生活への適応困難は、生理機能、運動機能、認知機能、社会的機能などのいずれかの要因により、もしくは複数の要因が重なって生じます。生活に生じた問題を分析し対策をたてるためには、人の心や身体の仕組み、モノの捉え方・判断の仕方、学習・記憶の仕方、社会規範の理解・対応の仕方、行為・動作として表現する仕組みなどに関する知識が必要となります。

作業療法学専攻では、適応機能の改善・回復を効果的に実践するための作業活動の特性を学び、対象者個々のニーズに合わせ作業を適応・段階づける知識・技術を獲得する作業分析、評価、援助法などを体系的に学ぶことができる教育プログラムを提供します。

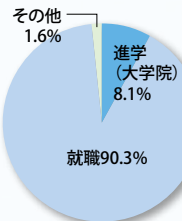
作業療法に限らず、リハビリテーションに関連する専門領域は、他の医療領域に比べて歴史が新しい領域であり、今後さらなる発展が要望されており、高度先進医療と相補する治療・援助技法として最も脚光を浴びています。その要望に応えるために、研究を遂行し絶えず精錬していき、研究を臨床の場に具体的に反映することができる人材を育成します。

明日を拓く作業療法

2007年度より大学院(医学研究科人間健康科学系専攻)が開設され、臨床研究と共に、近赤外線分光法、脳波、自律神経機能測定、神経心理学的検査、脳磁図などによる客観的指標の研究にも取り組み、京都大学病院と連携し、高度な臨床専門職、教育・研究職を育成しています。

卒業後の進路

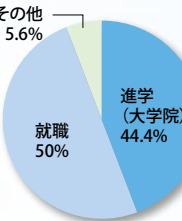
2013 年度実績



【看護学専攻】

医療系(病院、保健所、市町村、企業内健康管理部門など)、官公庁、一般企業、教育研究機関、大学院進学など

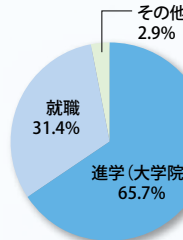
進学(5)	大学院	5
就職(56)	病院	45
	企業	6
	官公庁	5
その他		1



【理学療法学専攻】

医療系(大学病院、リハビリテーション専門病院、一般病院)、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

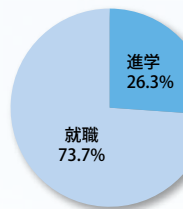
進学(8)	大学院	8
就職(9)	病院	7
	企業	2
その他		1



【検査技術科学専攻】

医療系(病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

進学(23)	大学院	22
	その他	1
就職(11)	病院	3
	企業	8
その他		1



【作業療法学専攻】

リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、児童福祉施設、一般企業、行政機関、大学院進学など

進学(5)	大学院	5
就職(14)	病院	12
	企業	2

人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

【看護学専攻】看護師、保健師(選択制) 【検査技術科学専攻】臨床検査技師 【理学療法学専攻】理学療法士 【作業療法学専攻】作業療法士

Message

夢を目標に

がん患者さんにリハビリテーションができないか。漠然とした考えを持って、私は理学療法士を志しました。理学療法は運動器疾患や呼吸器疾患などを対象としたものが主流であり、がんリハビリテーションはまだまだ未開拓の分野です。しかし京都大学では、そのような分野に挑むための知識や技術、そして意欲を得ることができます。座学と臨床実習で科学的な問題解決能力を養い、多方面に秀でる友人たちと向上心を刺激し合えるという点も、京都大学の魅力の一つであったと感じています。

私は現在、がん専門病院で理学療法士として奮闘する毎日を送っています。高校生の頃に描いていた夢は、少しずつ具体的な目標として掲げられるようになってきました。大きな理想の実現に、突き詰めたい領域の発掘に、挑戦できる環境がここにはあります。

卒業生メッセージ

2012年 人間健康科学科理学療法学専攻卒業

2014年 医学研究科人間健康科学系専攻

リハビリテーション科学コース修士課程修了

神戸低侵襲がん医療センター(理学療法士)勤務

(岸和田高等学校(大阪府)出身)

松岡 優 さん



大学の先を目指して

私は「看護師になりたい!」という思いをもってこの学科を選択しました。しかし具体的にどこでどのような働き方をしたいかというヴィジョンは全くありませんでした。

大学で看護学を学ぶうちに、一言で看護師といっても働き方は様々なことが分かりました。専門科目の授業では、京大附属病院の医師、看護師長さん、専門看護師さん、米国の看護師免許をもつ方々様々な働き方をしている医療の道の先輩方が講義をしてくださいます。看護師の活躍の場の広さを実感するとともに、自分次第でその可能性を広げられると感じました。

また、様々な考え方の人と対話をすることで、自分もっていないアイディアに触れ、自分がどんな人間であるかを知ることができます。多くの人と関わり、自分がやりたいことをどこまでも深めていける環境がここにはあります。

在校生メッセージ

看護学専攻3回生

(観音寺第一高等学校(香川県)出身)

合田 千晶 さん



考える力を鍛える

スポーツで腰を痛めリハビリに励んだことが、この道を志したきっかけでした。第1期生として京都大学医学部保健学科(現:人間健康科学科)に入学し、先生が行う作業療法を見た時、自分の目指す道は「これや!」と感じたことを今でも鮮明に憶えています。

京大での学びは、学生が何を学びたいか、何を学ぶべきかを主体的に考え、自らの知的探求心を知的財産に変えていく作業にあると思います。このような学びは、現在勤務している大学病院での臨床思考力の礎となり、様々な病氣や障害をもつ方のよりよい生活とは何か?よりその人らしい生活とは何か?を思考し、実践できる作業療法士に成長させてくれていると思います。作業療法士として活躍できる仲間が増えることを期待しています。

卒業生メッセージ

2008年 保健学科(現人間健康科学科)

作業療法学専攻卒業

京都大学医学部附属病院(作業療法士)勤務

(北千里高等学校(大阪府)出身)

草野 佑介 さん



Stay hungry, stay foolish.

自由の学風は京都大学の特色として有名ですが、私は様々なことにチャレンジすることを通して、この学風の恩恵を強く感じました。私は生命科学と医療に関する研究に興味があったので1回生時より研究室の扉を叩き、早期に研究活動に参加し技術と知識を磨くことができました。また教職員や大学の援助も受け、合成生物学の世界大会に出場することができました。

これらのことは京都大学が学生の自主性や対話を根幹とした自学自習といった教育理念を尊重し、広く学習の門戸を開き、貪欲に学ぶことに対する力強いサポートを惜しまないことに依るものが多いです。大学では受け身の状態では楽しいことは起こりません。是非、自由の学風を活かし、リスクを恐れずに何事にもチャレンジしましょう。京都大学で皆様と切磋琢磨し合えることを心よりお待ちしております。

在校生メッセージ

検査技術科学専攻4回生

(日比谷高等学校(東京都)出身)

小松 リチャード 馨





Faculty of Pharma

創薬の革新、育薬の探求、
そして医療と社会への貢献

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、主体的に知識を広げ、深く探求し、創造するための素質と豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心、探求心、そして行動力を持続けられる人材が求められます。

薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創製し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、物理系、生物系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学部では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、4年制学部卒業生に向けた薬科学専攻と医薬創成情報科学専攻の2つの専攻と、6年制学部卒業生に向けた薬学専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省からの創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部に皆様を招待します。

ceutical Sciences



▲薬学専門実習風景

薬学部の教育

● 創薬科学研究者と高度な医療を支える薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を発展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を支える薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科で構成されています。

● 1～2 回生(薬科学科、薬学科共通)：全学共通科目を中心とした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに

に、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

● 3～4 回生(薬科学科)：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路

を考える上でも重要なものです。

● 3～6 回生(薬学科)：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。4回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学ワークショップを行い、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4回生後期から特別実習が行われます。特別実習は6回生まで行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で5ヶ月間の実務実習を行います。

学部カリキュラム

	薬学共用試験						薬剤師国家試験			
	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	学部5年	学部6年	博士1年	博士2年	博士3年	博士4年
薬学科(6年制)	全学共通科目 早期体験学習	専門科目 全学共通科目	専門科目 専門実習	特別実習 専門科目 事前学習	特別実習 事前学習 病院・薬局実務実習	特別実習 アドバンスト医療系 講義・演習				
薬科学科(4年制)	学部1年 全学共通科目	学部2年 専門科目 全学共通科目	学部3年 専門科目 専門実習	学部4年 特別実習 専門科目	修士1年	修士2年				

学科紹介

薬科学科

医薬品の設計と合成そして生体分子との相互作用に関わる諸問題を、構造と機能ならびに作用と動態などの側面から研究する総合科学として、薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には研究室に配属され最先端の研究に触れる特別実習を行います。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院(博士前期課程)に進学します。

研究室紹介

薬科学科専攻

●薬品合成化学：高須 清誠 教授

- 1) 生理活性天然化合物の合成
- 2) 高次分子変換のための実践的方法論の開拓
- 3) 活性種の特性を活かした高官能基選択的な変換反応の開拓
- 4) 生体内で特異機能を発現する人工低分子の設計と開発
- 5) 有機金属反応剤の活性化と不斉化手法の開拓

●薬品分子化学：竹本 佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

●薬品資源学：伊藤 美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの生合成機構の解明
- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 吸入投与による精油の生薬薬理学的研究

●薬品機能解析学：松崎 勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

●構造生物薬学：加藤 博章 教授

- 1) ABCトランスポーターの構造薬理学
- 2) X線自由電子レーザーを用いたタンパク質結晶学
- 3) X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

●製剤機能解析学：石濱 泰 教授

- 1) プロテオームー斉解析法の開発
- 2) シグナル伝達プロテオームに関する研究
- 3) 膜とタンパク質の相互作用および膜脂質のダイナミクスに関する研究
- 4) 脂質微粒子の調整と生物物理学的研究

●精密有機合成化学：川端 猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

●生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体Ca²⁺シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の機能制御と情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

●生体機能解析学：金子 周司 教授

- 1) イオンチャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬、機能解析、薬効解析、安全性評価、病因論、ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基礎および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

●遺伝子薬学：三宅 歩 講師

- 1) 細胞増殖因子(FGF)の脂肪組織、骨・軟骨、脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

薬科学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として、薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。1年次には早期体験学習が実施され、4～6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬科学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院(博士課程)に進学します。

●医療薬科学：松原 和夫 教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポータの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用のin vitro予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポータ・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

医薬創成情報科学専攻

●薬理ゲノミクス・ゲノム創薬科学：平澤 明 准教授

- 1) 最先端質量分析に基づくがんのバイオマーカー探索
- 2) 最先端質量分析に基づくがんのゲノム創薬
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

●ケモゲノミクス・薬品有機製造学：大野 浩章 准教授

- 1) ゲム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) 新規フラグメント合成法の開発と長鎖ペプチド合成への応用
- 4) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 5) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痴呆剤の分子設計・合成研究

●システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 再生、老化における分子時計の細胞内時間ネットワーク機構を解明する。
- 2) 分子時間の異常による慢性疾患(高血圧、発癌、神経変性疾患)の発症機構を解明し、時間を基にした新しい病気の理解、その治療法を開発する。
- 3) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

●システムケモセラピー(制御分子学)：掛谷 秀昭 教授

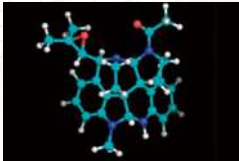
- 1) 多因子疾患(癌、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等)に対する次世代化学療法の開発を指向した先端のケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生体活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメタシナリゲミストリー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究(コンビナトリアル合成研究等)

●統合ゲノミクス：緒方 博之 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) ゲムと生体内化学反応の知識に基づく合成可能な天然物の予測
- 4) 医薬品開発に伴う化学構造変換の知識に基づく薬らしさの予測
- 5) 薬物間相互作用、薬物・標的間相互作用のネットワーク解析

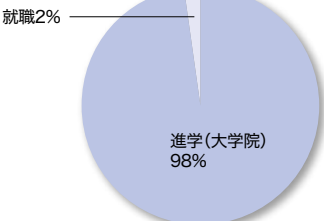
●分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス・ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精確化
- 5) システムズバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解



卒業後の進路

薬科学科：9割以上が大学院へ進学します。修士課程を修了した学生の3割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国公立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では7割が製薬会社に就職しています。

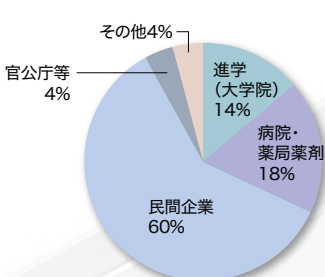


4年制 薬科学科
2013年度実績

就職先の例(修士課程修了者)

田辺三菱製薬(株)／第一三共(株)／中外製薬(株)／富士フイルム(株)／日本ロレアル(株)など

薬科学科：卒業生のうち、約1割が博士課程に進学します。卒業生の就職先には、医療機関、薬局、企業、国公立研究機関などがあり、職種も薬剤師、研究職など様々です。



6年制 薬科学科
2013年度実績

就職先の例

京都大学医学部附属病院／神戸大学病院／京都府／田辺三菱製薬(株)／アステラス製薬(株)／第一三共(株)など

Message

基礎研究と臨床教育の両立

今の高校生が薬学部を目指すとき、6年制と4年制で迷う人も多くのではないかと思います。私は、6年制を選んでも研究者になる道が開けていることが、京大薬学部最大の特長だと感じています。

京大薬学部には、基礎研究はもちろん、臨床教育に力を入れてきた歴史があります。私自身、旧4年制でありながら、現6年制と同等の臨床実地教育を受けた修了生の一人です。学生時代に臨床現場で実際に患者様にお会いしたこと、日々の病気の闘い、苦しみを間近に感じ、少しでも力になりたいと思ったことは、製薬企業の研究者となった今も強く心に残り、研究のモチベーションにつながっています。

基礎研究と臨床教育、どちらも経験豊富なスタッフによるサポートが得られるのは大きな魅力です。ぜひ、皆さんも京大薬学部で実り多い学生生活を過ごしてください。

卒業生メッセージ

2006年 総合薬学科卒業
2008年 薬学研究科修士課程修了
2011年 薬学研究科博士後期課程修了
エーザイ株式会社ニューロサイエンス&ジェネラルメディスン創薬ユニット 研究員
(柏陽高等学校(神奈川県)出身)

前田 早苗 さん



憧れの京都大学

私が京大薬学部入学に入学したいと思ったのは、もともと好きだった実験によって、病気で苦しんでいる人を救うことができる薬を作れたからです。

京都大学は高校生の私にとって、遥か遠い憧れの大学でした。受験勉強は辛かったですが、どんな時もあきらめずに努力したことが実を結んで、今の私がいるのだと思います。その憧れの大学で受けてきた講義はすべて、私にとっての宝物です。大学生活を通して、薬学の様々な分野の中でも、特に有機合成に興味を抱くようになりました。今は、実習を通して有機合成の実験が思う存分でき、とても充実した毎日を送っています。入学前から抱いていた創薬に対する熱い思いを忘れることなく、これからも研究に励んでいきます。

研究に集中することができる環境の整った京都大学をみなさんもぜひ志してください。

在学生メッセージ

薬科学科4回生
(関西大学第一高等学校(大阪府)出身)

泉 早苗 さん



現在感じている京大の秀逸なところ

創薬では化合物、生体内の標的分子や細胞、患者など、非常に異なる対象の情報に基づいて研究が立案されます。私はこれらに必要な有機化学、生物学、薬力学などの膨大な知識を京大薬学部で学びました。大学院では独創的な発想を通じて多分野で有用な化合物の精密設計を学びました。現在経口投与可能なペプチド医薬品の創製を目指していますが、京大で学んだ事がこの研究の発案と推進に大いに役立っています。

京大は他学部との交流の機会が多くあり、専門以外でも優秀な方から刺激をもらうことができ、ユニークで優れた人材になるには最高の環境です。また京大大学院を卒業すれば世界のどこでも通用する実力を得られると感じています。これから京大に入学される方にもこの環境で日々多くの事を吸収していただき、世界で活躍していただきたいと願っています。

卒業生メッセージ

2006年 総合薬学科卒業
2008年 薬学研究科修士課程修了
2011年 薬学研究科博士後期課程修了
米国ハーバード大学 幹細胞・再生生物学部門
博士研究員
(宇都高等学校(山口県)出身)

林 一広 さん



京都大学薬学部の魅力

私は以前より薬学の研究をしたいと考えていたので、基礎知識や実際の治療についての勉強に加えて、研究にもよく取り組みたいと考え、京都大学薬学部薬学科を志望しました。

ここで学生生活を送る中で、講義では幅広い薬学的な知識を学ぶことができましたし、5回生時の実務実習では、病院・薬局における薬剤師の業務を体験して、大学での勉強とはまた違った知識や考え方が身についたように感じます。

現在私は、病態情報薬学分野で研究に取り組んでいます。研究室では、先生方と、あるいは学生同士で議論を交わしながら自分のテーマに関して研究を行う中で、知識や実験技術だけではなく、研究を行う上での考え方を学んでいます。

このように、勉強だけでなくとどまらず、本格的に研究に取り組める点は京大薬学部の魅力であると思います。

在学生メッセージ

薬科学科6回生
(岐阜高等学校(岐阜県)出身)

山下 拓真 さん





Faculty of Engineering

自由な発想と独創性に
基づく社会貢献

工学部が望む学生像

- 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- 既存概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部に進展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開講し、現在では工学研究科のほとんどの専攻が移転を終えています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、第4学年の特別研究(卒業研究)を主に桂キャンパスで行います。



▲物理工学科 機械システム学コース 機械設計演習1 講義風景



▲桂キャンパスの様子

工学部の教育

●「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既存概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」とつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかり学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

●第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、国際高等教育院を主体として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が

履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

●高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

●第4学年では特別研究(卒業研究)に取組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取組み、その結果を学

士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を修得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

●カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

学科紹介

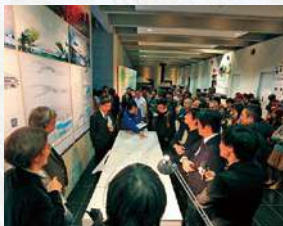
地球工学科

地球工学(Global Engineering)は、文明に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ(社会基盤施設)の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

2011年度より、国際的技術者の養成を目的とし、全授業を英語で受講できる国際コースを開設しています。



▲地盤の力学試験の様子



▲設計演習講評会の様子



▲クリーンルームにおける微細加工実験の様子

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題(たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など)において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。



▲第2学年での実習風景



▲宿泊研修に参加した92名の情報学科1回生



▲工業化学科での最先端化学の研究

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く関わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も、建築設計及び施工に従事する建築家、建築構造技術者及び設備環境技術者、行政的な指導・監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギーの開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておく必要があります。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の5つのコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報科学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学教育研究センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

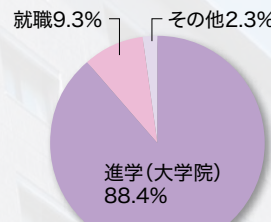
卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上(平成25年度約88%)の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。

工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

2013年度実績



大学での最高に楽しい時間

京都大学在学中、最も楽しかったのは学部4回生、大学院の3年間で、この3年間では、地震が起きたときの鉄筋コンクリートの柱の破壊メカニズムを研究しました。巨大な構造実験室での実際に近いサイズの鉄筋コンクリートの柱の製作・実験では、手伝ってくれる方々の協力、模型の設計など、研究＝デスクワークというイメージがあった私にとっては、一つ一つが新しい挑戦の連続でした。そんな中でも、指導教員の懇切丁寧な指導、同期、先輩、後輩の支えのおかげで、数々の苦勞が吹っ飛ばくらい楽しい学生生活、研究生を送らせていただきました。卒業はしたものの、その経験を通して出会った方々が自分の信じる道を歩み続けていると思うだけで、自分も頑張らねばと思います。そのような方々とお出会う場を与えてくれた京都大学に私は心から感謝しています。

卒業生メッセージ

2012年 地球工学科卒業
2014年 工学研究科都市社会工学専攻修士課程修了
西日本高速道路株式会社 勤務
(高知工業高等専門学校(高知県)出身)

後藤 源太 さん



自分を磨く

僕は情報系の技術に興味があり、とにかくレベルの高いところで学びたいという思いがあったので、京都大学の情報学科を選びました。3回生までは、興味がある一般・専門科目や実験・実習を受け、苦戦しながらも先生方や友人の力を借りて、確実に成長できたと感じます。現在は研究室に配属され、忙しいながらも楽しい勉強の日々を送っています。僕が皆さんに伝えたいのは、京大合格がゴールではないということです。僕は、周りで京大に入ることだけが目標だった人たちが、京大に入って新たな目標を見つけられず、だんだんと怠け者になっていく姿を見ました。京大に合格し、京大でまた新しいことに挑戦し、自分を磨いていくことが大切です。

ですから皆さんも、今のうちから京大でどんなことを学びたいか、どんな自分になりたいかを考えてみてください。

在学生メッセージ

情報学科4回生
(半田高等学校(愛知県)出身)

黒田 拳斗 さん



Message

応用をやるなら基礎をやれ

上記は、工業化学科を卒業しノーベル化学賞に輝いた福井謙一先生のお言葉で、私の座右の銘です。皆さんは京都大学と言えば、世界をリードする最先端の研究が行われる場と想像されるかと思います。実際にノーベル賞受賞者を多数輩出していますが、その根底にあるのは基礎重視の教育なのです。私自身、学部でしっかり基礎を学べたからこそ、大学院での最先端の研究を楽しむことができ、現在の職業にもつながりました。創業は化学のみならず、薬学、生物学、医学などを応用する総合科学であり、その際に役立つのが確かな基礎だと実感しています。基礎さえ確かであれば、京都大学には素晴らしい学習環境、研究設備が用意されているので、自分のやる気次第で応用できる可能性は無限大に広がります。皆さんも京都大学で基礎を学び、将来への礎として下さい!

卒業生メッセージ

2010年 工業化学科卒業
2012年 工学研究科合成・生物化学専攻修士課程修了
塩野義製薬株式会社 医薬研究本部
コア疾患研究所 勤務
(京都成章高等学校(京都府)出身)

鬼追 芳行 さん



やりたいことに打ち込める環境

電気をうまく使うことで、環境問題の解決に貢献したいと思い、電気電子工学科に入学しました。この学科で、電気、電子・情報などの世の中のニーズの多い分野を幅広く学ぶことができ、将来の可能性が広がると感じました。また、卒業研究では、最先端の研究設備が整った環境で研究に取り組むことができました。現在は、大学院で環境発電に関する研究を続けています。

京大には、自分の興味のあることにとことん取り組める環境が整っています。自分の専門分野を追求することもでき、逆に専門に縛られず興味のある一般教養や他学部の授業を受けることもできます。また、学問だけでなくサークルやアルバイトに取り組むこともできます。好奇心の強い周囲の人たちには、日々刺激を受けました。皆さんもこの環境の中で様々なことに挑戦してみてください。

卒業生メッセージ

2014年 電気電子工学科卒業
工学研究科電気工学専攻修士課程1回生
(福岡高等学校(福岡県)出身)

小野 愛実 さん



自分をデザインしてゆく

小学生の頃、図工が一番好きでした。昔から物づくりが好きだったという、そんな単純な動機から京都大学の建築学科を選びました。入学してみると、そこは今までの学生生活とは違い、同じ志を持った人が集まる、意識の高い場であると感じました。建築学科の特徴として製図という授業があります。製図室という大教室に自分の机を割り当てられ、仲間たちとともに作業をこなしていきます。偉大な教授方にも恵まれており、周りと切磋琢磨して成長していける環境があります。建築学科では4回生になるときに、3回生までの3年間で学んだ幅広い分野の中から更に細かい専門に分かれたそれぞれの研究室に配属されます。やりたいことを多くの選択肢の中から自分で選んでいくことができる、そんな自由のある京都大学で自分の道を自分でデザインしていきましょう!

在学生メッセージ

建築学科4回生
(一宮高等学校(愛知県)出身)

佐分 駿 さん





Faculty of Agriculture

生命・食料・環境

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々な、かつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った、多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

農学部への誘い

衣食住は人間の生活にとって必要不可欠です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれませんが、今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら、品種改良や食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星などを利用したリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきか考えていくことも、農学の重要な課題です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした、生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科(農学科)、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万8千名に及ぶ卒業生を社会に送り出し、食料の生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在、わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、地球温暖化や砂漠化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動には、なおいっそうの自然との調和が求められています。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をかけない方法や技術を見出していかなければならないのです。

この大きな課題に、皆さんもぜひチャレンジしてください。



▲実習農村に広がる棚田



▲青果市場セリ見学

▲無農薬栽培農園の柑橘

農学部の教育

●専門知識の習得と広い視野の育成:6学科を準備

農学部は、農学とそれに関連する知識とともに高い倫理性を身につけた社会人を育てることを目的としています。さらにそのような人材に(1)人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想する能力(2)農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与する能力(3)生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学の研究を理解する能力を備えさせることをめざしています。

この目的を実現するため、農学部では、資源生物科学科、応用生命科学科、地域環境工学科、食料・環境経済学科、森林科学科、食品生物科学科の6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重しながら、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成に取り組んでいます。

人間社会は、地球上の動植物や微生物などさまざまな生物と持続的に共存しながら、それらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、食物連鎖や物質循環をとおしてどのような生態系を形成しているのかについての、広く深い理解が欠かせません。また、人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げていくことが求められます。

●どのように学びは始めるのか:第1年次

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわれます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられますが、各学科のカリキュラム(授業計画)には、これらの教養科目と専門科目がクサビ状に組み合わされて構成されています。このような学業とクラブやサークル活動などをどのように組み合わせるかは、それぞれの新入生がまず頭を悩ます難問で

す。農学部では、そういった際に、クラス担任など、相談できる教員を用意しています。

第1学年で大切なことは、学部・学科にとらわれない幅広い学識を養うことです。そこで、1年間は全学共通科目を重点的に学びます。例えば、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。保健・体育科目などへの参加もできますし、留学生とのふれあいも多い「国際教育科目」を加えるなどして自分のカリキュラムを作ります。全学共通科目の履修は、第2学年(特に夏までの前期期間)にかけても続きますが、参考になる書籍や論文などは吉田キャンパスの附属図書館や電子ジャーナルで入手でき、また総合博物館も貴重な資料を提供してくれます。

●どのように学びを高めるのか:第2・3年次

第2学年の後期(秋から冬)になると、専門基礎科目の割合も増えて、いよいよ第3学年からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では、講義に加え、実験、実習、ゼミナールが重視され各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。このような専門教育が第2学年から始まるのです。農学部図書室や附属農場、附属牧場、演習林、舞鶴水産実験所など、関連教育研究施設との繋がりも強くなってきます。農学部は京都大学の中でも派遣留学生(京都大学から外国へ留学する学生)の数が多く、国際交流活動の最も盛んな学部の1つです。毎年、数多くの学生が、将来への抱負と希望をもって、派遣留学に挑戦します。

第3学年は専門科目の受講に終始します。研究者への第1歩としても重要なプロセスですが、同時に研究

分野(研究室)への分属という大きな選択をする時期です。将来の方向も考えて分野訪問などで情報を収集しながら、体系だった講義の選択が求められます。農学部の各学科では、それぞれに工夫をこらしたシステムで各分野への分属を決定します。

●どのように学びを結ぶのか:第4年次

第4学年では、研究分野に分かれて課題研究(卒業研究)に1年間取り組み、卒業論文を仕上げます。教員の指導や助言を受けながら、大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む、研究者としての最初のステップです。従って、この1年間は自身の研究、研究分野のゼミナール、そして進学希望者は大学院入学試験の受験準備に没頭する生活を送ることになります。以上により、所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業します。さらに研究を深めようと志す多くの学生は大学院へ進学します。

●どこで学ぶのか:自然に抱かれて

農学部の教育の大部分は、京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館の北に位置する農学・生命科学研究棟や、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(大阪府高槻市:近い将来に京都府木津川市に移転の予定です)・牧場(京都府京丹波町)でも行われます。いずれの施設も学習環境は整備され、自然環境や文化的景観にも囲まれた立地で、皆さんに励ましと優しさを与えてくれます。



▲4回生の演習報告



▲現地調査風景

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、有用物質・遺伝子の有効利用やこれまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

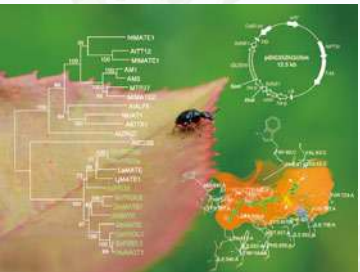


▲イネの開花時期が熟期を決める

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医療、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学、植物分子生物学



▲化学の視点から生命現象を解き明かす

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント（農業水利施設の効率的な維持管理と更新）による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、持続的食料生産のためのエネルギーの変換、利用、最小の入力で最大の効率を得る植物工場や精密農業、そのためのロボット化および農畜生産物の生物センシングなど、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、生物センシング工学



▲植物工場

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業食料組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林経済政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論



▲持続可能な発展が課題となる中国華中農村

森林科学科

森林は、樹木をはじめとする動植物や菌類からなる生態系を形成しており、生活に必要な木材や紙などの木質資源を供給する一方、災害を防ぎ、気候を維持するなど環境保全機能を有しています。森林科学科では、自然を保護し豊かな社会を作るため、森林とそのバイオマス資源を研究対象として、生態系、生物多様性、管理と生産、緑地工学、地球環境化学、材料工学、有機化学、分子生物学、細胞生物学、バイオマスエネルギー、社会科学的アプローチなど、学生一人ひとりの多様な興味に合わせて、オリジナリティー豊かな教育を受けることができます。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学



▲環境を守り、森の恵みと生き物を科学する

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を動物、植物、微生物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食糧不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学



▲健康増進を目指す未来型バスタを創る

卒業後の進路

卒業生の8割程度が大学院に進学しています。

就職先については、公務員、公的研究機関の研究員、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・コンピュータ関係など、幅広い分野で活躍しています。

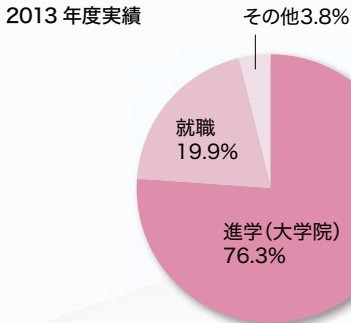
就職先の例

農林水産省／文部科学省／京都市／(株)関西電力／(株)大阪ガス／カゴメ(株)／全国農業協同組合連合会／(株)東京三菱UFJ銀行／(株)ドワンゴ／農林中央金庫／野村証券(株)／(株)野村総合研究所／(株)博報堂／(株)日立製作所／丸紅(株)／三井物産(株)

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程、樹木医補の資格認定のための教育課程を設けているなど、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

2013 年度実績



Message

京都大学での出会いが私をつくった

入学して驚きました。難解な研究内容を心から楽しそうに語る教授たち。好きな生物の勉強をできれば、ぐらいの漠然とした思いは、次第に確固とした目標となり、私は研究者を志すことを決めました。

京大周辺の神社で採取した土から有用な微生物を見出したのが、私の研究者人生の第一歩。現在のスクリーニング対象は新薬候補化合物。対象は違えど、超一流の先生達に教わった、自然現象を謙虚に見つめる姿勢は今でも私のモットーです。

さらに、自由で個性豊かな学友との出会い。賀茂川でくだらない話を朝までし、御所で野球をして汗を流し、八坂神社で花見をしました。彼らとの出会いは、私の学生生活を何十倍にも豊かにしてくれました。

そして最後に一つ、全ての想い出の背景が、歴史ある街並であることは、ちょっとした誇りです。

卒業生メッセージ

2005年 応用生命科学科卒業
2007年 農学研究科応用生命科学科専攻
修士課程修了
武田薬品工業株式会社
医薬研究本部生物分子研究所 勤務
(東邦大学付属東邦高等学校(千葉県)出身)

小山 亮吉 さん



無限の可能性が準備された環境

最後の青春である大学4年間をどのように過ごすか。京都大学には無限の可能性が準備されていると思います。あらゆるスポーツ、文化系の部やサークルがある中で私は体育会男子ラクロス部に所属し日本一を目指しています。多くのことを犠牲にし、つらいこともたくさんありますが日本一という目標を目指す中でしか得られない感動や自己の研鑽という意味では最高の学生生活を送れています。

学業においては、工学、経済、生物、社会学など様々な角度から農学を研究する農学部には実に多種多様な授業が用意されており、必ず自分のやりたいことが見つかると思います。長いようで短い4年間、学業でも部活動、サークル活動でも自分が打ち込める“何か”を見つけ全力を注いでください。そのための最高の環境が整っているのが京都大学です。頑張ってください！

在学生メッセージ

地域環境工学科4回生
(東海高等学校(愛知県)出身)

稲垣 伸 さん



京都大学の魅力

高校の先生の強い勧めで志した京大農学部。「食」は全てのヒトに関わる深いテーマだと考え、食品生物科学科に入学しました。本学科では食品に関わる現象を講義や実習を通じて体系的に学ぶことができます。また農学部に限らず、京大の「自由の学風」の下に集まった個性溢れる先生方や学生達と交流することで、考えの視野を大きく広げることができました。大学院では食品成分の機能性の研究を行い、未知の領域を切り拓く面白さに気づきました。現在は食品メーカーの研究所で、ヒトの感性(五感)と「食」との関係について研究しています。農学に限らず、物理学や心理学など様々な知識が必要ですが、京大で得た知識や考え方を生かして日々課題解決に取り組んでいます。

皆さんも是非京大で自分の可能性を上げ、大舞台で活躍する人になってください。

卒業生メッセージ

2011年 食品生物科学科卒業
2013年 農学研究科食品生物科学専攻
修士課程修了
日本ハム株式会社 中央研究所 勤務
(岡山朝日高等学校(岡山県)出身)

山田 絢子 さん



出会いと学びの場

私は樹木の生き方に興味があったことに加え、人間との関わりまで拡張して考える農学という学問の在り方に魅かれて森林科学科を志しました。そして今ではハワイまで行って樹木の研究をしています。

さて、入学以前にある方から「京大の良さは研究室の近さだな」と言われたことがあります。実際、講義を受けている同じ建物の中で最先端の研究が刻々となされています。そこで訪ねてみると、先生方がキラキラした目で嬉しそうに研究の話をしてくれたり、実際の調査に同行させてくれたりもします。

研究室訪問に限らず、人と出会うことは何事にも代えがたい素晴らしいことであり、様々な人の行きかうこの大学と京都という場はそれに最適です。是非様々なところに赴き、人と出会い、価値観を知る、楽しい大学生活を目指してください。

在学生メッセージ

森林科学科4回生
(高崎高等学校(群馬県)出身)

甘田 岳 さん





Student voices

京大生に聞いてみよう！

京大生たちに「京都大学の魅力」を聞いてみました。実際に生活する彼らならではの生の声を聞いてみてください。

Theme 1

京都大学の魅力って？



谷頭 慧

教育学部2年生

充実した教育環境の中で、自分の興味関心に合った分野に出会えます。谷頭さんは、ゼミで「面白い」と思えるものに会えたそうです。
【長田高等学校 (兵庫県) 出身】



安藤 悠太

工学部3年生

長い歴史のある京都で、充実した大学生活を送りましょう。
【東海高等学校 (愛知県) 出身】



改森 実奈

法学部3年生

多様で面白い人たちの出会い、充実した学びの場、京都大学では、自分次第で世界をどんどん広げることができます。
【西京高等学校 (京都府) 出身】



福田 健太

農学部2年生

京都大学には、どこよりも「自由」がある反面、自分への「責任」も求められます。自らを律する責任感は将来必ず役に立つでしょう。
【日比谷高等学校 (東京都) 出身】



中尾 祐貴子

農学部3年生

京都大学には、多種多様な実習・研修があり、貴重な経験を積み重ねることができるプログラムが用意されています。
【金蘭千里高等学校 (大阪府) 出身】



横田 洋

総合人間学部3年生

京都大学では、「強い個性」を持った素晴らしい仲間と切磋琢磨し、自分を高めることができます。
【筑波大学附属高等学校 (東京都) 出身】



高木 駿

薬学部4年生

京都大学には、自分のやりたいことをとことん追求できる環境が整っています。
【大田原高等学校 (栃木県) 出身】



西山 大悟

文学部3年生

常識にとらわれすぎると、そこが自分の限界になります。今までの限界を突破して次の一步を踏み出しましょう。
【奈良高等学校 (奈良県) 出身】



濱田 珠実

文学部2年生

人と交流することで初めて本当の自分が見えてくることも。自分のことを一番わかっているのは自分よりも周りの人達かもしれません。
【船橋高等学校 (千葉県) 出身】



ANTON, ALINA ELENA

人文科学研究所 研究生

京都大学でしかできない経験を求めて、日本だけでなく世界からたくさんの人が集まります。
【ルーマニア出身】



木野 結

文学部3年生

出る杭が打たれず歓迎される京都大学。あなたも好きな分野で出る杭になってください。
【匠曜高等学校 (千葉県) 出身】



高田 晃晃

理学部3年生

世界最先端の研究ができる、最高の環境と出会いが京都大学にはあります。
【滝高等学校 (愛知県) 出身】



薮本 章広

経済学部3年生

いろんな考えを持つ人が集まる京都大学。多くの人との関わりの中から刺激を受けて、想像もつけないような新しい自分に会ってください。
【六甲高等学校 (兵庫県) 出身】



DUDUS DAMIAN LUKASZ

日本語・日本文化 研修留学生

千年の都、京都で学ぶことは留学生の憧れです。と素晴らしい日本語で話してくれました。
【ポーランド出身】



IBARRA MEDA, Diego Ivan

工学部 交換留学生

キャンパスにはいろいろな国からの留学生がいて、いろいろな言語が飛び交っています。
【メキシコ出身】



Student voices

京大生に聞いてみよう！

現役京大生が実際に経験してきた受験への秘訣を聞いてみました。役立つ勉強法が見つかるかも！

Theme 2

受験生へのメッセージ



中田 愛

医学部3回生

絶対無理だと思っていることでも、実際やってみると案外うまくいったりするものです。まずは、何でも挑戦してみてください。
【神戸海星女子学院高等学校（兵庫県）出身】



川原田 美沙

工学部1回生

受験期には辛いこともありましたが、見事努力が報われました。今は自分の夢に向かって、充実した大学生活を送っていると明るく語ってくれました。
【長野日本大学高等学校（長野県）出身】



武田 翔理

法学部3回生

努力は大事！目指す目標を明確化して、毎日コツコツと積み重ねて前に進んでゆきましょう。
【甲陽学院高等学校（兵庫県）出身】



熊坂 圭祐

医学部3回生

最後まで粘って努力したことは、きっと自分に返ってきます。
【福島高等学校（福島県）出身】



立木 伸明

医学部3回生

「苦手」と片付けしないで、克服することも大事なことです。苦手を克服した経験は、大学でもきっと役に立つはず。
【東大寺学園高等学校（奈良県）出身】



後藤 大輝

工学部2回生

肩に力が入りがちな受験期には、時にはリラックスすることも必要です。
【岐阜北高等学校（岐阜県）出身】



麻植 文佳

総合人間学部3回生

夢は大きいほど、叶った時の喜びもひとしおです。京都大学はあなたの夢を応援します。
【大阪教育大学附属高等学校池田校舎（大阪府）出身】



宮本 萌里

薬学部3回生

焦りや不安も沢山あると思いますが、少しずつでも諦めずに続けることが大事です。
【四天王寺高等学校（大阪府）出身】



小寺 里奈

農学部3回生

睡眠を適度にとって集中力アップ。体調管理には十分気を付けて、万全の体調で試験に臨んでください。
【滝高等学校（愛知県）出身】



岩岡 史恵

農学部4回生

大変なことはいっぱいありますが、今悩んで考えて頑張ったことは、将来の自分を形成する大事な要素。だから、思いっきり、悩んで頑張ってください。
【大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎（大阪府）出身】



所 歩美

教育学部3回生

悔いのないようにやるべきことをしっかりやって、受験を楽しむくらいの気持ちで頑張ってください。
【奈良高等学校（奈良県）出身】



増田 遥

経済学部1回生

諦めて後悔するよりも、やり抜いて後悔しない道を選びましょう。
【南山高等学校女子部（愛知県）出身】



杉村 洋美

医学部2回生

どんな時でも頑張る友人、支えてくれる家族、応援してくれる先生、周りの人への感謝の気持ちを忘れないでください。
【静岡雙葉高等学校（静岡県）出身】



田邊 篤志

理学部3回生

今はまだ蕾かもしれません。でもあなたの蕾は、必ず花開く時がやってきます。その瞬間を信じてひた走りましょう。
【洛星高等学校（京都府）出身】



山下 俊

経済学部1回生

自分の勉強法が正しいのか迷う時、そんな時こそこの言葉を支えにしてください。
【西大和学園高等学校（奈良県）出身】